

座間市

道路構造物標準図

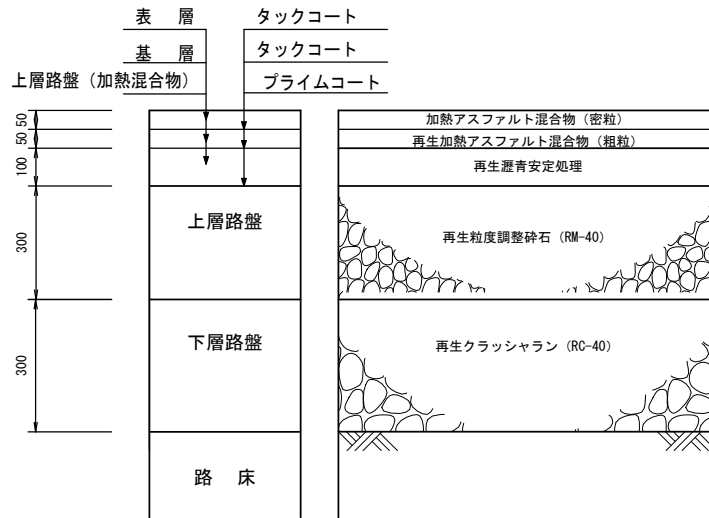
(令和 8 年 1 0 月 2 0 日 改訂)

座 間 市 都 市 部 道 路 課

目次

大分類	中分類	小分類	番号	大分類	中分類	小分類	番号		
舗装工	舗装構成	A号・A1号舗装道	1-1	交通安全施設工	交通安全施設工	ガードレール	4-1		
		B号・C号舗装道	1-2			ガードパイプ	4-2		
		歩道透水性舗装道・砂利道	1-3			横断防止柵	4-3		
		セメントコンクリート舗装道	1-4			転落防止柵（P種）	4-4		
	標準復旧断面図	車道部・車道部/砂利道	1-5			巻込み防止（車止め）用ポール	4-5		
		歩道部・透水性舗装道	1-6			警戒標識基礎（標識版1枚）	4-6		
	歩道切下げ構成	歩道切り下げ標準図 （全面切り下げ型、一般型）	2-1			道路反射鏡（1）	4-7		
		歩道切り下げ標準図 （巻込部）	2-2			道路反射鏡（2）参考図	4-8		
			計画交通量	計画交通量	座間市計画交通量路線網図	5-1			
排水工	L型側溝・柵	L型側溝・L型側溝（浸透式）	3-1						
		L型浸透集水柵	3-2						
		現場打L型側溝	3-3						
		組合せL型側溝	3-4						
	LU側溝	LU側溝・縁塊（240用）	3-5						
	その他側溝	上ぶた式U型側溝2種（240） 落ちふた式U型側溝3種（250） 横断暗きょ（240用）	3-6						
		柵	A・B雨水柵					3-7	
		グレーチング柵蓋	110° 開閉式グレーチング柵蓋					3-8	
	固定式グレーチング柵蓋		3-9						
	排水工舗装構成	現場打・組合せL型側溝基礎 舗装構成図	3-10						

A号舗装道



1層当りの仕上り厚さは、上層路盤は150mm以下、下層路盤は200mmまでとし、適切に施工すること。
※瀝青安定処理路盤の仕上がり厚さは100mm以下とする。

○ 材 料 表

設 定：必要TA=35(設計CBR=3%、交通量N6)※3

構 成	材 料 名	厚さ(mm)	種 類 ・ 規 格
		TA	
表 層	加熱アスファルト混合物	50	密粒度アスファルト混合物(20)(13)※1 ※ポリマー改質アスファルトⅡ型とする。
		5	
基 層	再生加熱アスファルト混合物	50	再生粗粒度アスファルト混合物(20)
		5	
上 層 路 盤	再生瀝青安定処理	100	再生瀝青安定処理(30)
		8	
	再生粒度調整碎石	300	再生粒度調整碎石 RM-40(M-40)※2
		10.5	
下 層 路 盤	再生クラッシャーラン	300	再生クラッシャーラン RC-40(C-40)※2
		7.5	
計		800	
		36	

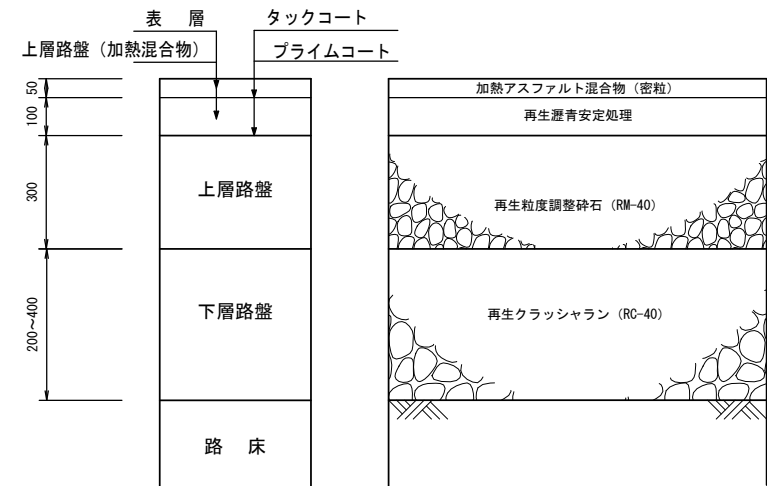
注：※1 ()は橋面舗装及び水密性確保が優先される場合等、状況に応じ適用。

※2 ()の材料も使用できる。

※3 参考：舗装設計便覧(平成18年2月) 社団法人 日本道路協会

A1号舗装道

1 - 1



1層当りの仕上り厚さは、上層路盤は150mm以下、下層路盤は200mmまでとし、適切に施工すること。
※瀝青安定処理路盤の仕上がり厚さは100mm以下とする。

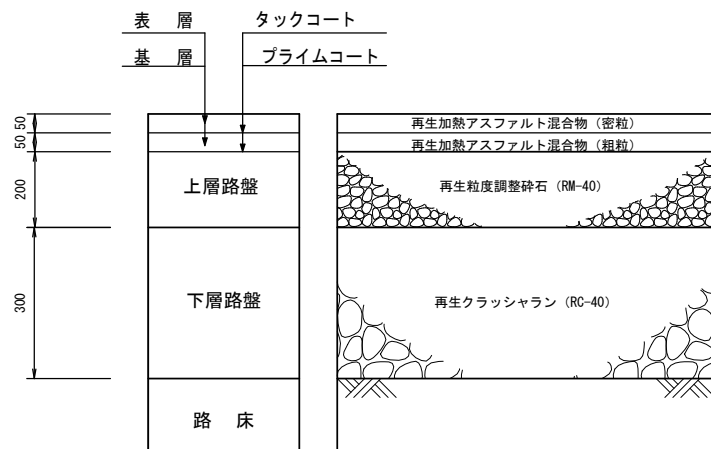
○ 材 料 表

設 定：必要TA=21~32(設計CBR=3~6%、交通量N6~N5)※3

構 成	材 料 名	厚さ(mm)	種 類 ・ 規 格
		TA	
表 層	加熱アスファルト混合物	50	密粒度アスファルト混合物(20)(13)※1 ※ポリマー改質アスファルトⅡ型とする。
		5	
上 層 路 盤	再生瀝青安定処理	100	再生瀝青安定処理(30)
		8	
	再生粒度調整碎石	300	再生粒度調整碎石 RM-40(M-40)※2
		10.5	
下 層 路 盤	再生クラッシャーラン	200~400	再生クラッシャーラン RC-40(C-40)※2
		5~10	
計		650~850	
		28.5~33.5	

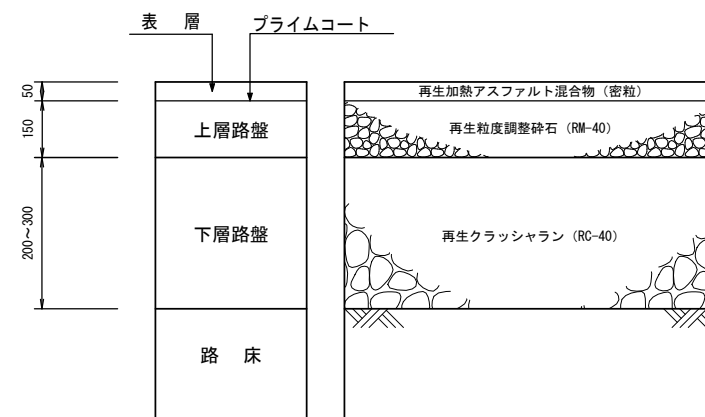
※4 道路が急勾配となっている箇所においては、道路管理者と協議の上、ギャップアスファルト舗装とすることができる。

B号舗装道



設計CBR 交通量区分	3	4	6	8	12	20
N7	45	41	37	34	30	26
N6	35	32	28	26	23	20
N5	26	24	21	19	17	15
N4	19	18	16	14	13	11
N3	15	14	12	11	10	9
N2	12	11	10	9	8	7
N1	9	9	8	7	7	7

C号舗装道



1層当りの仕上り厚さは、上層路盤は150mm以下、下層路盤は200mmまでとし、適切に施工すること。

○ 材 料 表

設 定：必要TA＝19（設計CBR＝3％、交通量N4）※3

構 成	材 料 名	厚さ (mm)	種 類 ・ 規 格
		TA	
表 層	再生加熱アスファルト混合物	50	再生密粒度アスファルト混合物 (20) (13) ※1
		5	
基 層	再生加熱アスファルト混合物	50	再生粗粒度アスファルト混合物 (20)
		5	
上 層 路 盤	再生粒度調整碎石	200	再生粒度調整碎石 RM-40 (M-40) ※2
		7	
下 層 路 盤	再生クラッシャーラン	300	再生クラッシャーラン RC-40 (C-40) ※2
		7.5	
計		600	
		19.5	

注：※1 () は橋面舗装及び水密性確保が優先される場合等、状況に応じ適用。

※2 () の材料も使用できる。

※3 参考：舗装設計便覧（平成18年2月）社団法人 日本道路協会

1層当りの仕上り厚さは、上層路盤は150mm以下、下層路盤は200mmまでとし、適切に施工すること。

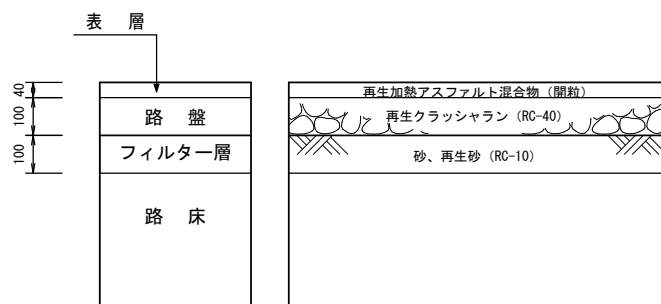
○ 材 料 表

設 定：必要TA＝15～16（設計CBR＝3～6％、交通量N4～N1）※3

構 成	材 料 名	厚さ (mm)	種 類 ・ 規 格
		TA	
表 層	再生加熱アスファルト混合物	50	再生密粒度アスファルト混合物 (20) (13) ※1
		5	
上 層 路 盤	再生粒度調整碎石	150	再生粒度調整碎石 RM-40 (M-40) ※2
		5.25	
下 層 路 盤	再生クラッシャーラン	200～300	再生クラッシャーラン RC-40 (C-40) ※2
		5～7.5	
計		400～500	
		15.25～17.75	

※4 道路が急勾配となっている箇所においては、道路管理者と協議の上、ギャップアスファルト舗装とすることができる。

歩道透水性舗装道

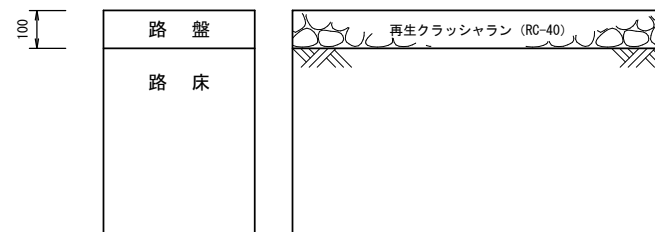


○ 材 料 表

構 成	材 料 名	厚さ (mm)	種 類 ・ 規 格
表 層	再生加熱アスファルト混合物	40	再生開粒度アスファルト混合物
路 盤	再生クラッシャーラン	100	再生クラッシャーラン RC-40 (C-40) ^{※1}
フ ィ ル タ ー 層	砂・碎石	100	砂または再生砂 (RC-10)

注：※1 () の材料も使用できる。

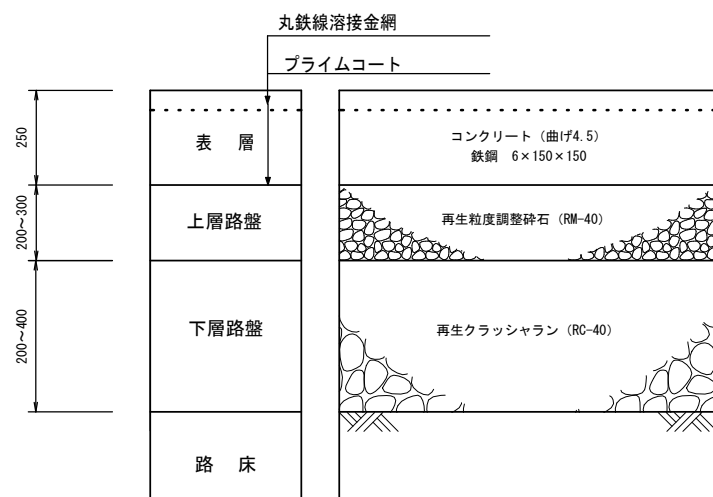
砂利道



○ 材 料 表

構 成	材 料 名	厚さ (mm)	種 類 ・ 規 格
路 盤	再生クラッシャーラン	100	再生クラッシャーラン RC-40

セメントコンクリート舗装道 (舗装厚20cm以上)



1層当りの仕上り厚さは、上層路盤は150mm以下、下層路盤は200mmまでとし、適切に施工すること。

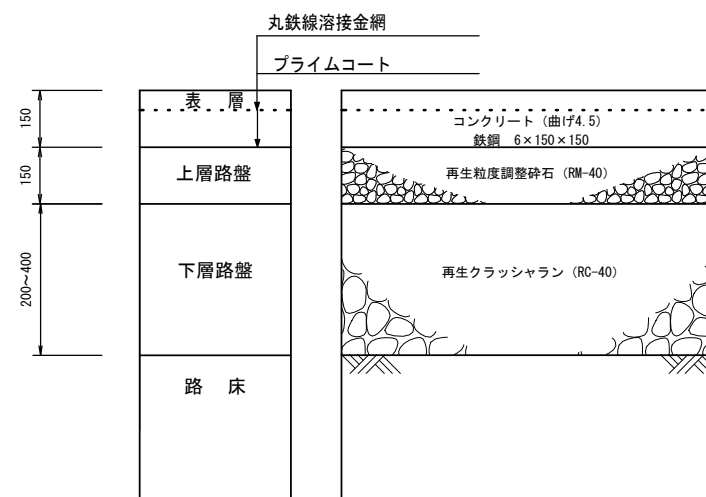
○ 材 料 表

構 成	材 料 名	厚さ (mm)	種 類 ・ 規 格
表 層	丸鉄線溶接金網	250	3.0以上 6.0×150×150 (mm)
	生コンクリート		生コンクリート (C21-8)
上 層 路 盤	粒度調整碎石	200~300	再生粒度調整碎石 RM-40 (M-40) ^{※1}
下 層 路 盤	クラッシャーラン	200~400	再生クラッシャーラン RC-40 (C-40) ^{※1}

注：※1 () の材料も使用できる。

路盤厚さは、各路線における舗装構成に合わせて施工すること

セメントコンクリート舗装道 (舗装厚20cm未満/C号舗装道)



1層当りの仕上り厚さは、上層路盤は150mm以下、下層路盤は200mmまでとし、適切に施工すること。

○ 材 料 表

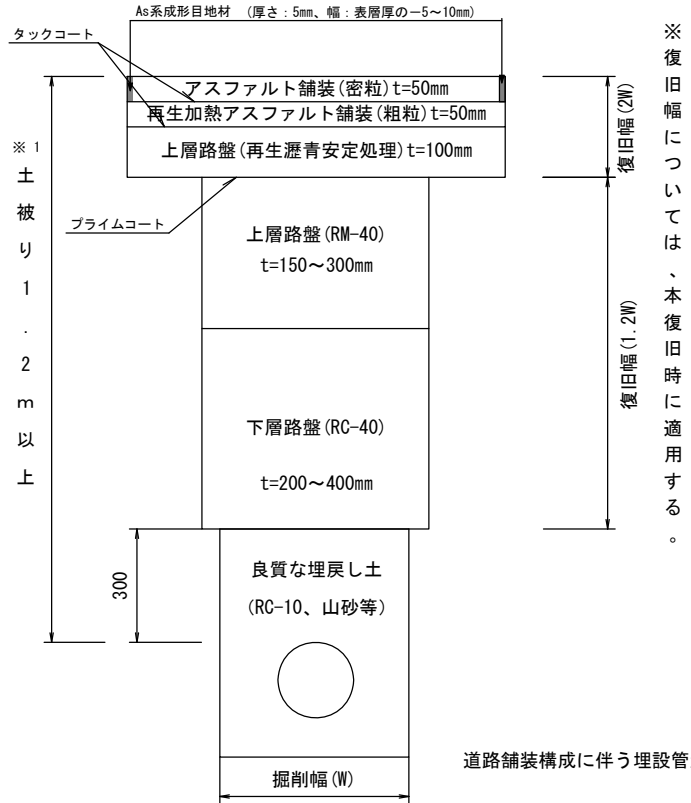
構 成	材 料 名	厚さ (mm)	種 類 ・ 規 格
表 層	丸鉄線溶接金網	150	3.0以上 6.0×150×150 (mm)
	生コンクリート		生コンクリート (C21-8)
上 層 路 盤	粒度調整碎石	150	再生粒度調整碎石 RM-40 (M-40) ^{※1}
下 層 路 盤	クラッシャーラン	200~400	再生クラッシャーラン RC-40 (C-40) ^{※1}

注：※1 () の材料も使用できる。

路盤厚さは、各路線における舗装構成に合わせて施工すること

標準復旧断面図

車道部

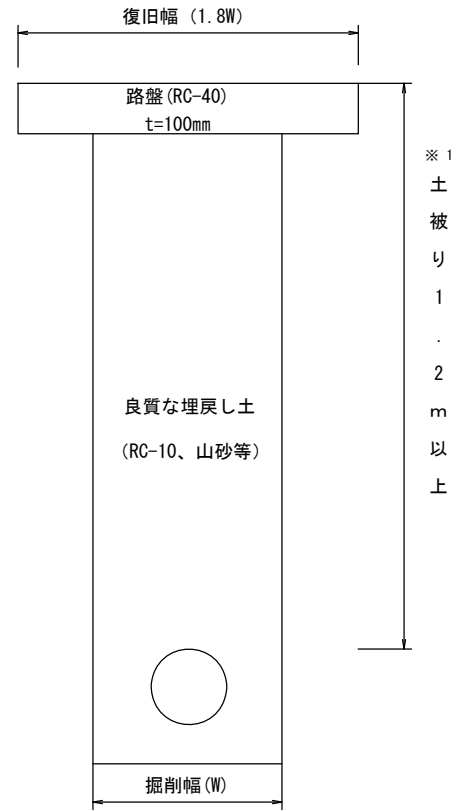


道路舗装構成に伴う埋設管深さ管理表

		(単位:m)					
舗装厚	道路構成	A号	A1号	B号	C号	砂利道	歩道部
	表層	アスファルト	0.05	0.05	0.05	0.05	
舗装厚	基層	アスファルト	0.05		0.05		
	上層路盤1	再生瀝青安定処理	0.10	0.10			
	上層路盤2	再生粗粒度調整砕石	0.30	0.30	0.20	0.15	0.10
	下層路盤	再生クラッシュラン	0.30	0.20~0.40	0.30	0.20~0.30	
舗装厚さ 合計値		0.80	0.65~0.85	0.60	0.40~0.50	0.10	
通常埋設深さ				1.2			
※1 浅層埋設深さ(舗装厚さ+0.3m)		1.10	0.95~1.15	0.90	0.70~0.80	0.40	
当該値(↑)が0.6m以下による補正		—	—	—	—	0.60	
下水道管(外圧1種ヒューム管)による補正		—	—	1.00	1.00	1.00	

- 路盤1層ごとにおける施工厚さ
再生瀝青安定処理=100mm以下
上層路盤(RM-40)=150mm以下
下層路盤(RC-40)=200mm以下
- 仮復旧は埋め戻し後即日施工し、
1週間以上開けた後に本復旧すること。
- 表層の復旧幅は近く(距離2m以内の箇所)に絶縁線がある場合は、
その絶縁線まで復旧すること。
- ※1 別に定める、「道路占用工事取扱基準 付録1 浅層埋設の
実施について」の内容に準拠した管路等を対象とする。
- 「路盤下-0.3m以下」には、本管のみならず支管および
取付金具等の構造物が入らないよう留意すること。

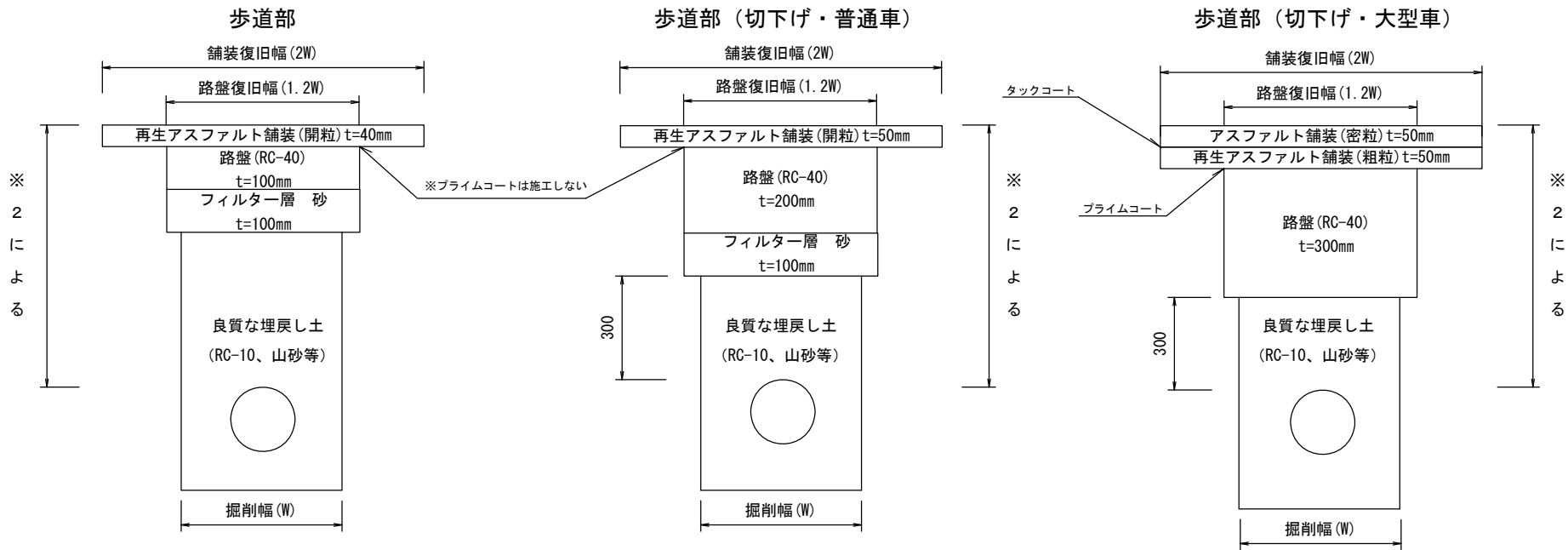
車道部/砂利道



- ※1 浅層埋設が適応可能な管路および管径は「座間市道路占用工事
取扱基準(付録-1)」を参照とする。
- ※2 歩道の地下に管路を設ける場合は、当該歩道と接する
車道部端の路面の高さを基準とする。
- ※3 セメントコンクリート舗装道の場合は、1-4の舗装構成を参照とし、
舗装厚さ-0.3m以下を基準とする。

標準復旧断面図

歩道部（透水性舗装）



道路舗装構成に伴う埋設管深さ管理表

		(単位: m)					
	道路構成		A号	A1号	B号	C号	砂利道
	表層	アスファルト	0.05	0.05	0.05	0.05	
舗装厚	基層	アスファルト	0.05		0.05		
	上層路盤1	再生遊青安定処理	0.10	0.10			
	上層路盤2	再生粗粒度調整砕石	0.30	0.30	0.20	0.15	0.10
	下層路盤	再生クラッシュラン	0.30	0.20~0.40	0.30	0.20~0.30	
舗装厚さ 合計値			0.80	0.65~0.85	0.60	0.40~0.50	0.10
通常埋設深さ			1.2				
※1 浅層埋設深さ(舗装厚さ<0.3m)			1.10	0.95~1.15	0.90	0.70~0.80	0.40
当該値(↑)が0.6m以下による補正			—	—	—	—	0.60
下水道管(外圧1種ヒューム管)による補正			—	—	1.00	1.00	1.00

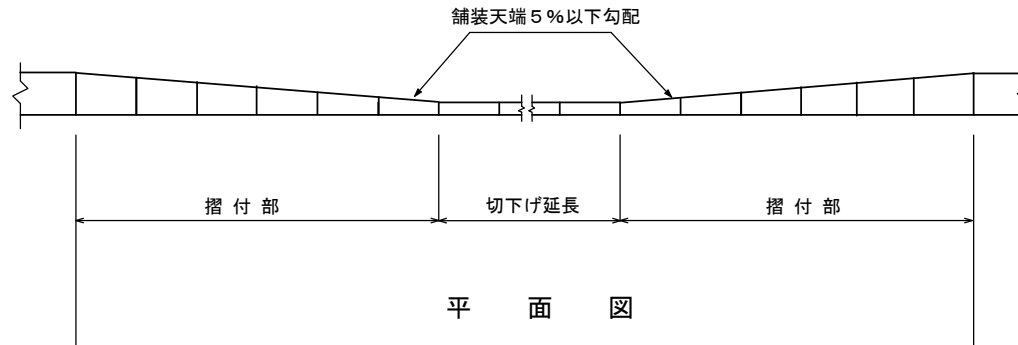
● 仮復旧は埋め戻し後即日施工し、1週間以上開けた後に本復旧すること。

● 表層の復旧幅は近く（距離2m以内の箇所）に絶縁線がある場合は、その絶縁線まで復旧すること。

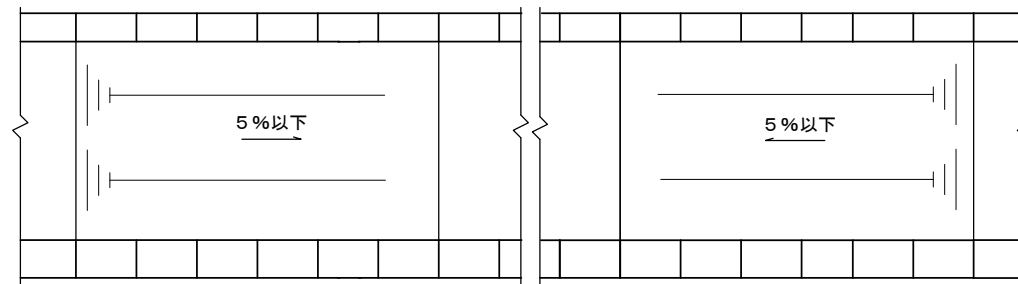
- ※1 浅層埋設が適応可能な管路および管径は「座間市道路占用工事取扱基準（付録－1）」を参照とする。
- ※2 歩道の地下に管路を設ける場合は、当該歩道と接する車道部端の路面の高さを基準とする。
- ※3 セメントコンクリート舗装道の場合は、1－4の舗装構成を参照とし、舗装厚さ0.3m以下を基準とする。

歩道切り下げ標準図（全面切り下げ型）

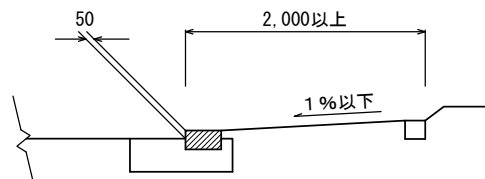
側 面 図



平 面 図

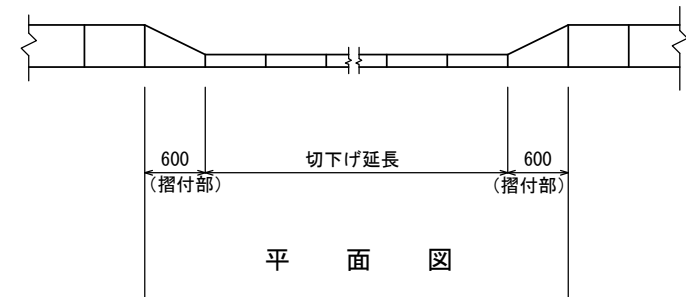


断 面 図

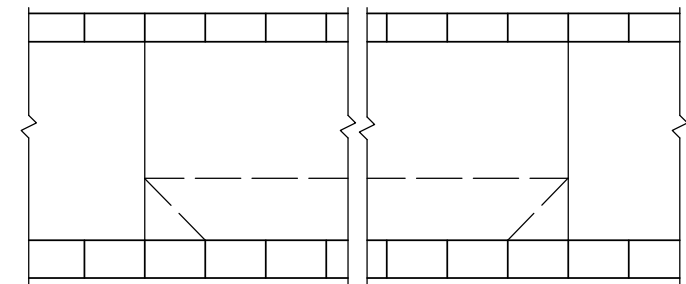


歩道切り下げ標準図（一般型）

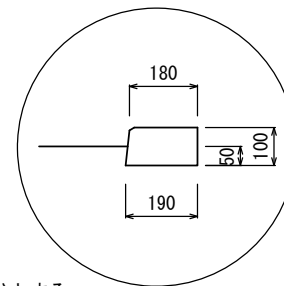
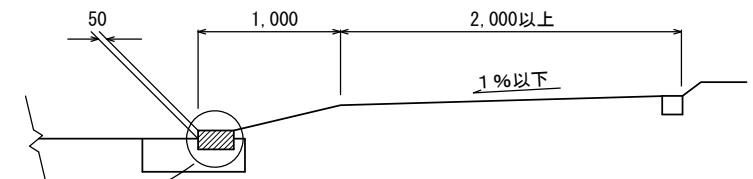
側 面 図



平 面 図



断 面 図



(注) 1. 標準切下げ延長は4.2mとし、車対応の舗装構成は切下げ延長+両側60cm分とする。

2. 横断歩道部の段差は5mmとし、切下げ部と摺付部の間に1.5m以上の水平区間を設ける。(2-2歩道(巻込部)切下げ標準図を参照)

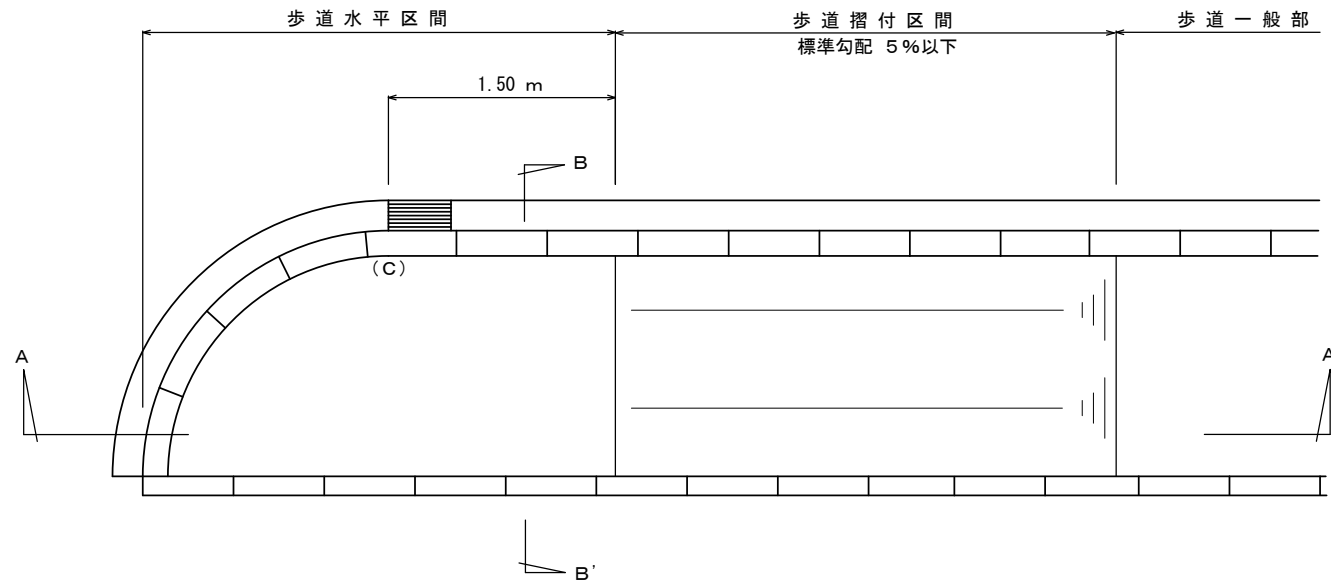
3. 横断勾配は1%以下とする。ただし、道路の構造、地形の状況等やむを得ない場合には、2%以下とすることができる。

4. 縦断擦付勾配は5%以下とする。ただし、沿道等の状況によりやむを得ない場合には、8%以下とすることができる。

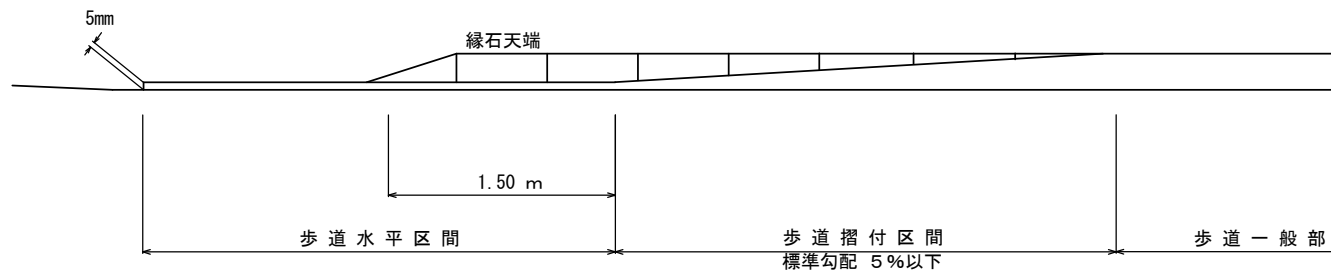
5. 歩道幅員3.0m未満は、全面切下げを標準とする。

歩道切下げ標準図（巻込部）

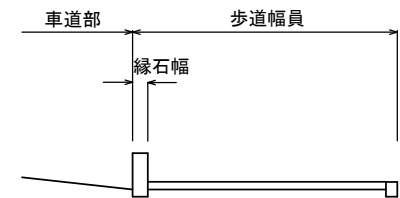
平面図



A - A' 断面

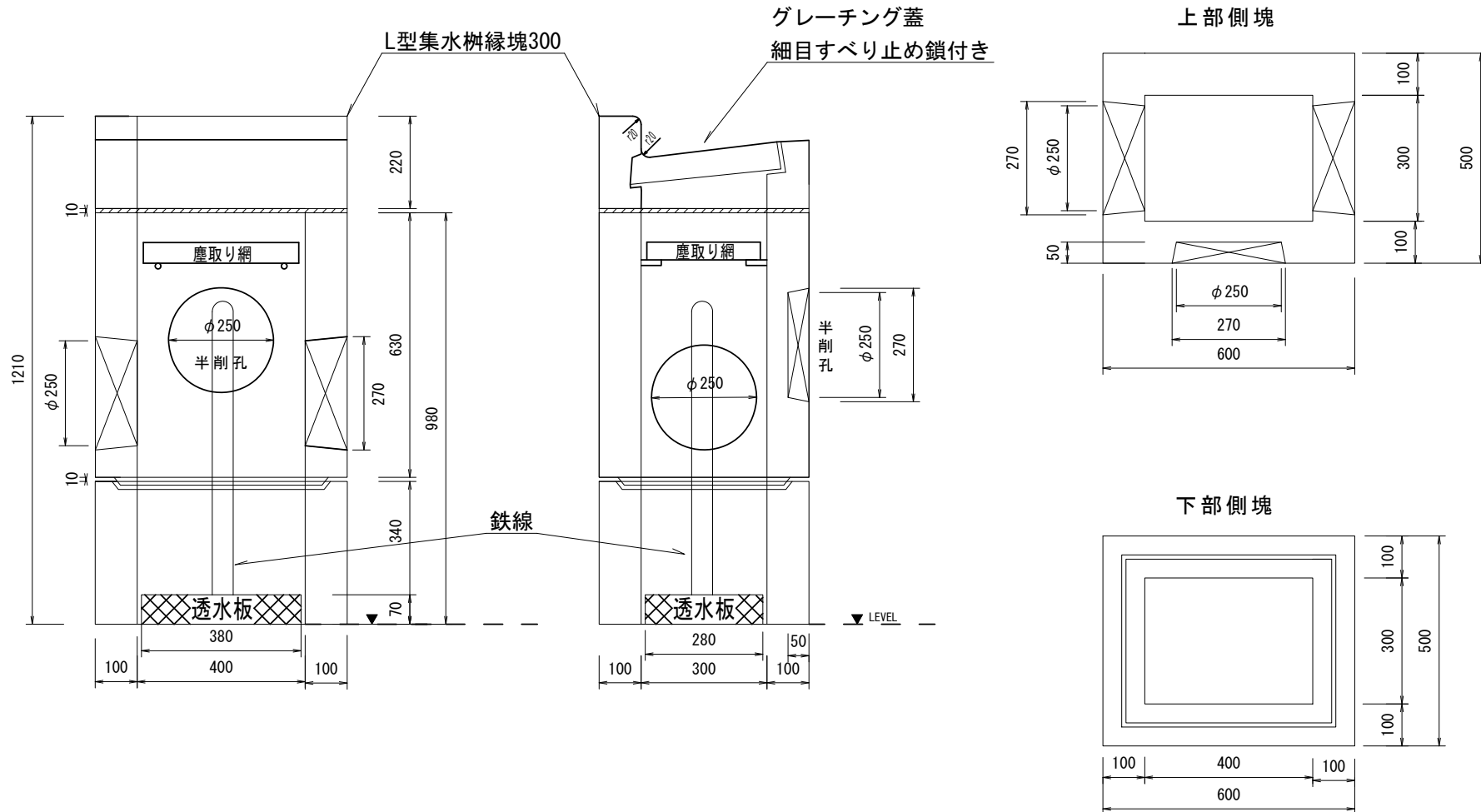


B - B' 断面



- (注) 1. 歩道水平区間については巻込み始地点 (C) から、摺付区間との間に 1.5 m 以上設ける。
 2. 縦断摺付勾配は 5 % 以下とする。ただし、沿道等の状況によりやむを得ない場合には、8 % 以下とする。
 3. 有効幅員 2.0 m 以上確保できない場合は、歩車道ブロックの天端は歩道縦断摺付勾配に合わせて設置する。

L 形浸透集水枡 S=1:15



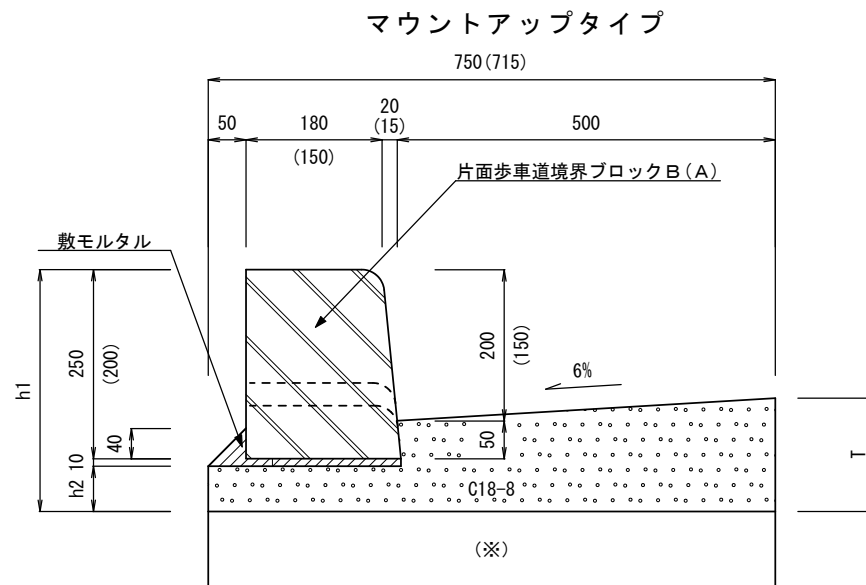
注：コンクリート製品と一般下水管への接続を目的とした硬質塩化ビニル管の接続箇所は砂付け施工を標準とすること。

参考重量

上部側塊 243kg

下部側塊 140kg

現場打 L 形側溝 S=1:10

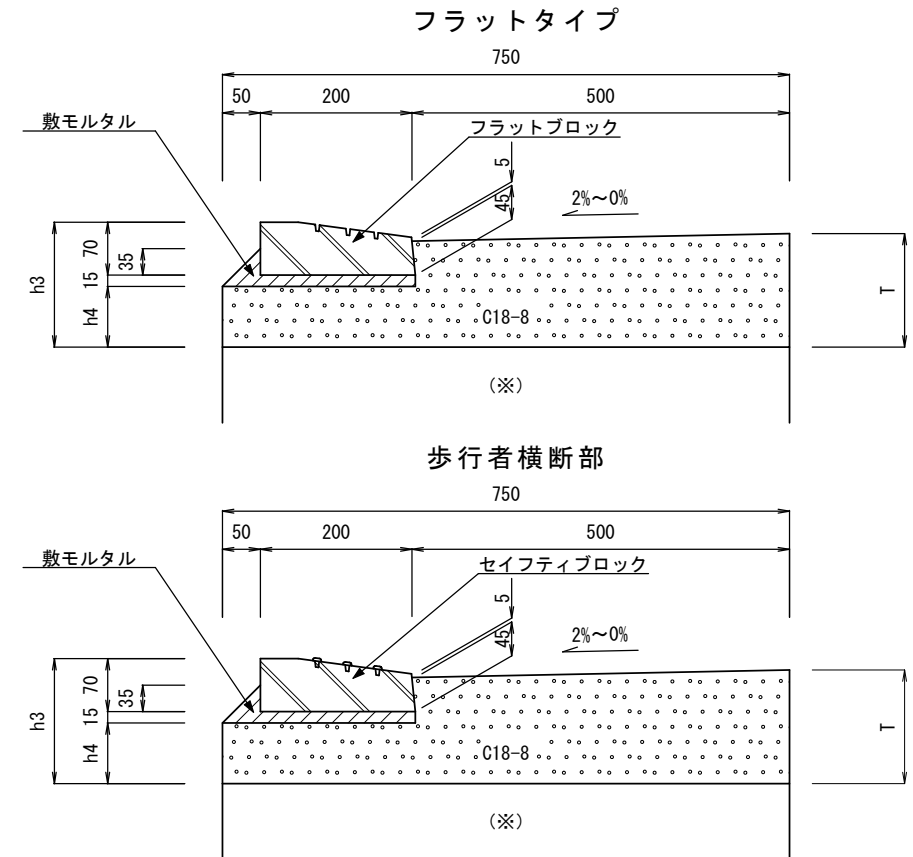


(※) : 側溝の基礎、舗装構成については 3-10 を参照すること。

注 : () は片面歩車道境界ブロック (A) 使用時の寸法を示す。

コンクリート打設箇所は 10m ごとに目地版を設置すること。

交通量の区分	大型車交通量 (台/日・一方向)	T エプロン厚 (mm)	h1	h2	h3 (2%~0%)	h4 (2%~0%)
N 1 交通	15 未満	150	320 (270)	60	165 ~175	80 ~90
N 2 交通	15 以上 40 未満					
N 3 交通	40 以上 100 未満					
N 4 交通	100 以上 250 未満					
N 5 交通	250 以上 1000 未満					
N 6 交通	1000 以上 3000 未満	200	370 (320)	110	215 ~225	130 ~140

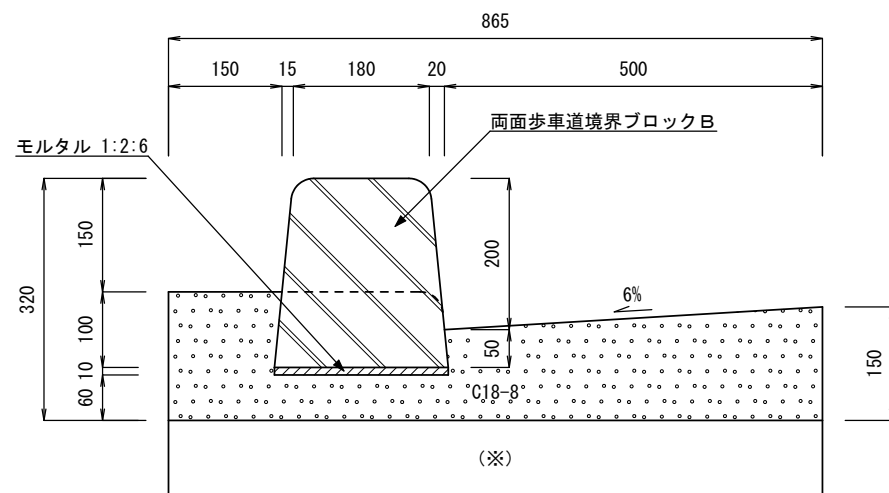


参考重量

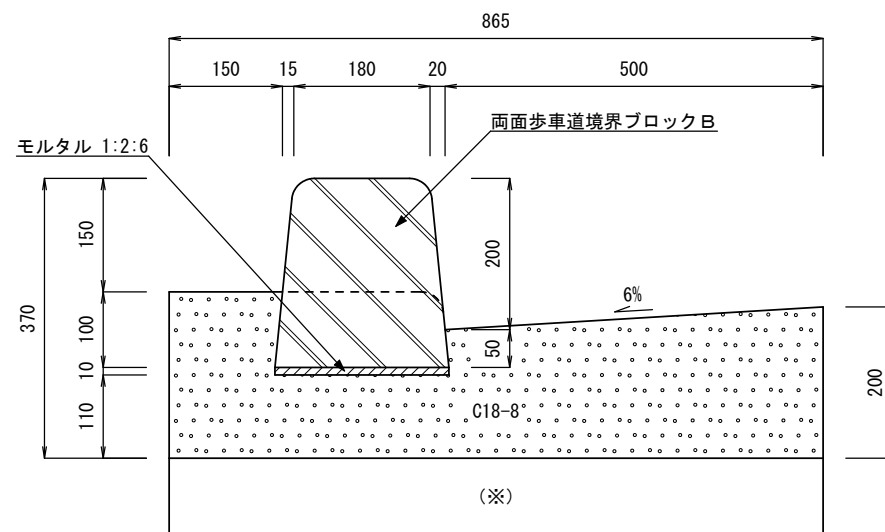
片面歩車道境界ブロック B (A) (一般部)	66 (44) kg	※平均重量
片面歩車道境界ブロック B (A) (B: 6 本斜、A: 5 本斜)	44 (31) kg	
片面歩車道境界ブロック B (A) (切下平)	19 (16) kg	
フラットブロック	18 kg	
セーフティブロック	18 kg	

組合せ L 形側溝 S=1:10 (歩道側セミフラットタイプ)

N 1 ~ N 5 交通



N 6 交通



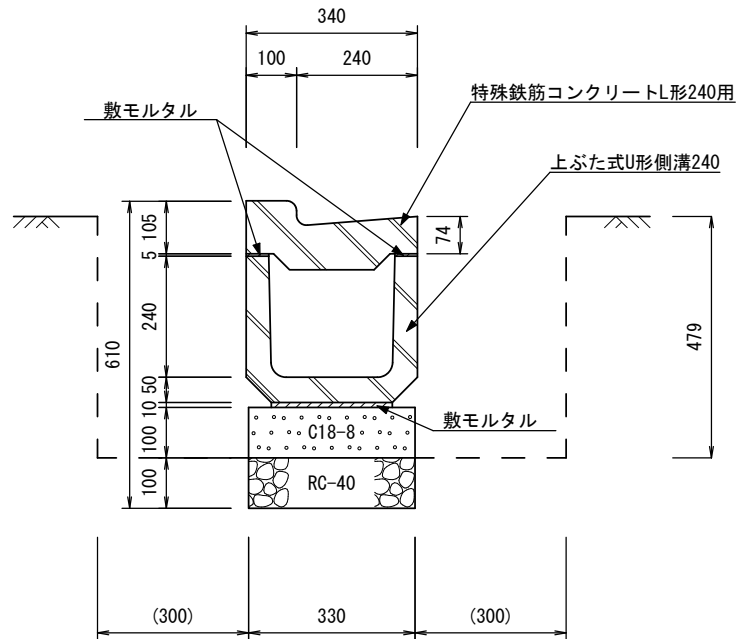
(※) : 側溝の基礎、舗装構成については3-10を参照すること。

注 : コンクリート打設箇所は10mごとに目地版を設置すること。

参考重量

両面歩車道境界ブロックB (一般部)	71kg
両面歩車道境界ブロックB (1本斜)	49kg
片面歩車道境界ブロックB (切下平)	19kg

L U 側溝 (240用) S=1:15



(注) U形とL形の重ねは、れんが積み方式とすること。

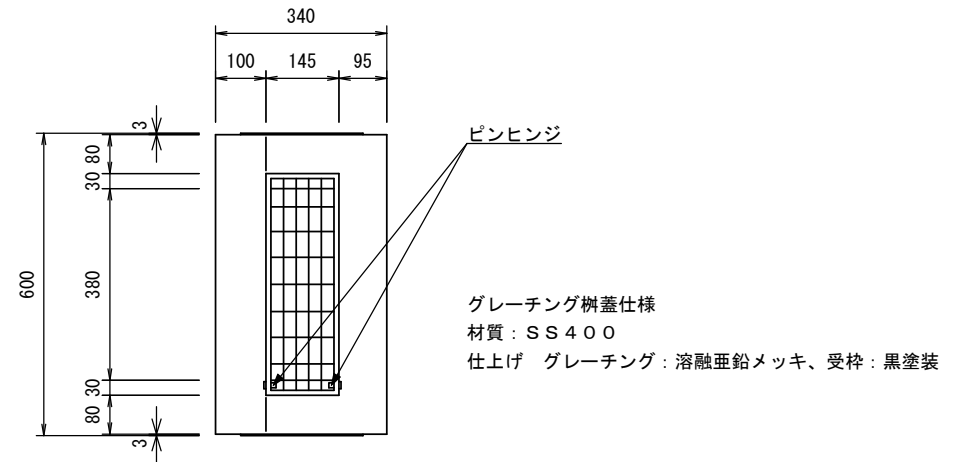
標準道路幅員 4.0m~4.5m

参考重量

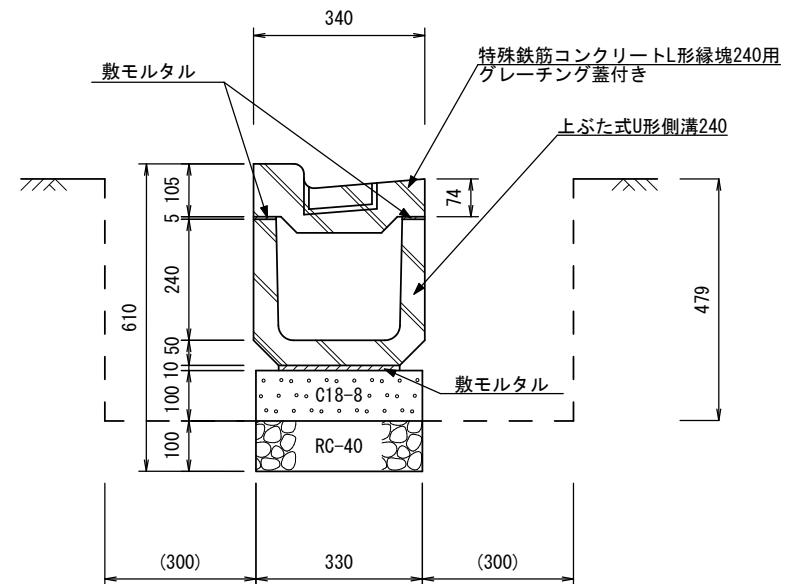
特殊鉄筋コンクリートL形240用	45kg
特殊鉄筋コンクリートL形縁塊240用	35kg
上ぶた式U形側溝240	53kg

() は参考寸法値とする。

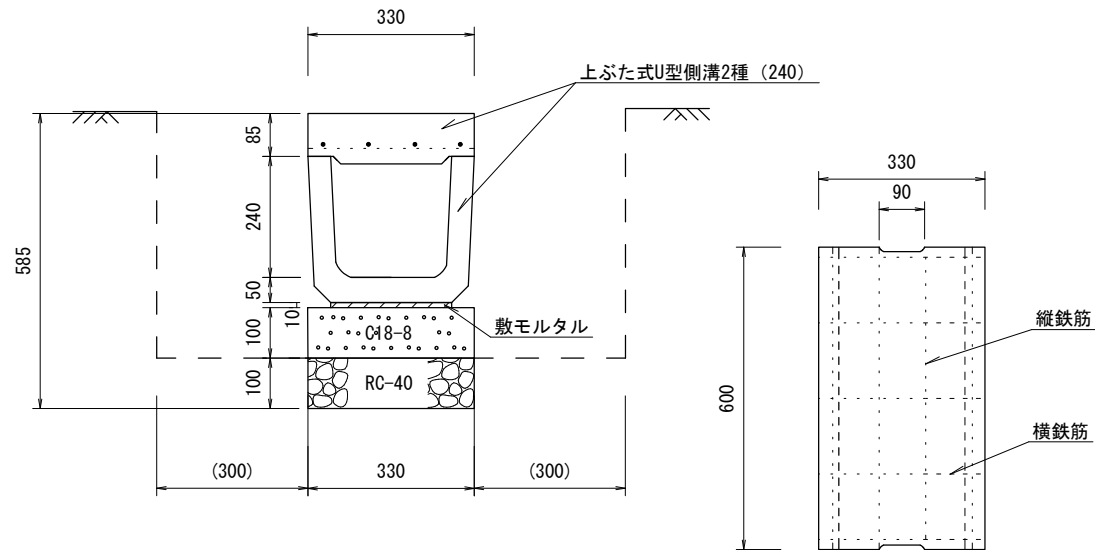
L U 縁塊 (240用) S=1:15



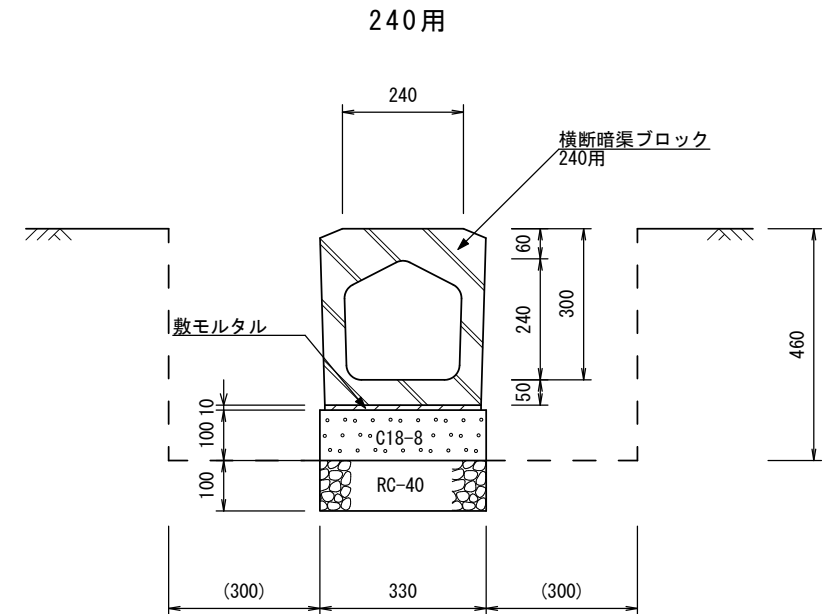
グレーチング樹蓋仕様
材質: SS400
仕上げ グレーチング: 溶融亜鉛メッキ、受枠: 黒塗装



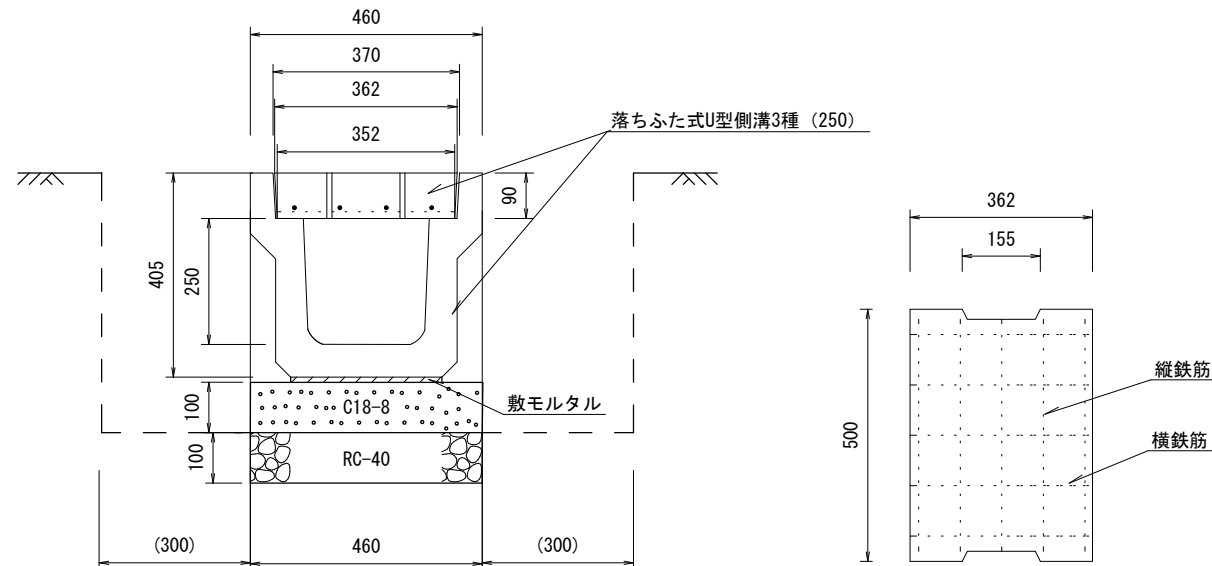
上ぶた式U型側溝2種 (240) S=1:15



横断暗きょ (240用) S=1:15



落ちふた式U型側溝3種 (250) S=1:15



U型・LU240 (250) 用

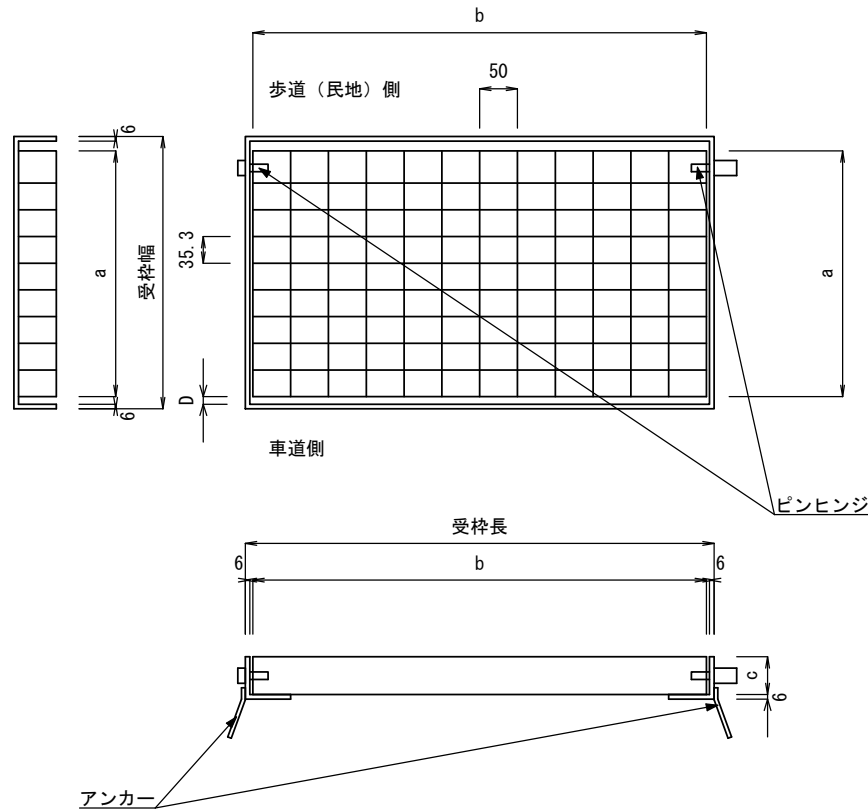
参考重量

上ぶた式U型側溝240 (本体)	53kg
上ぶた式U型側溝240 (ふた)	43kg
落ちふた式U型側溝250 (本体)	333kg
落ちふた式U型側溝250 (ふた)	37kg

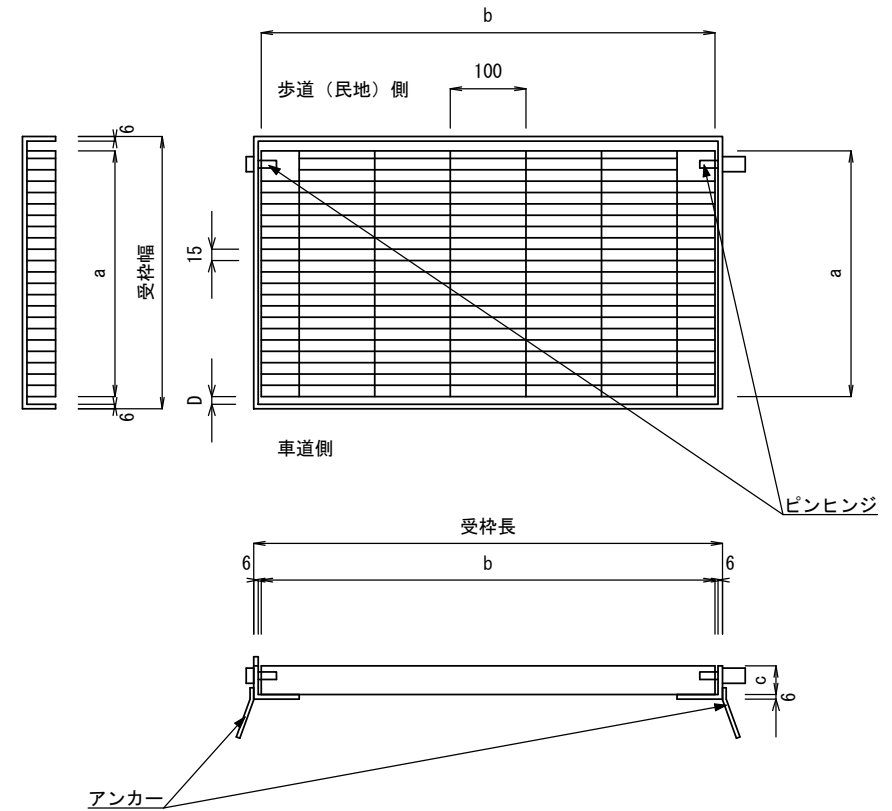
() は参考寸法値とする。

110° 開閉式グレーチング柵蓋 S=1:10

普通目



細目



主に交通量区分N1～N4の車道に使用

材質：SS400

仕上げ グレーチング：溶融亜鉛メッキ、受枠：黒塗装

車道側におけるグレーチングと受枠との隙間の最大値：D≤15mm

グレーチングは滑り止め加工を行うこと。

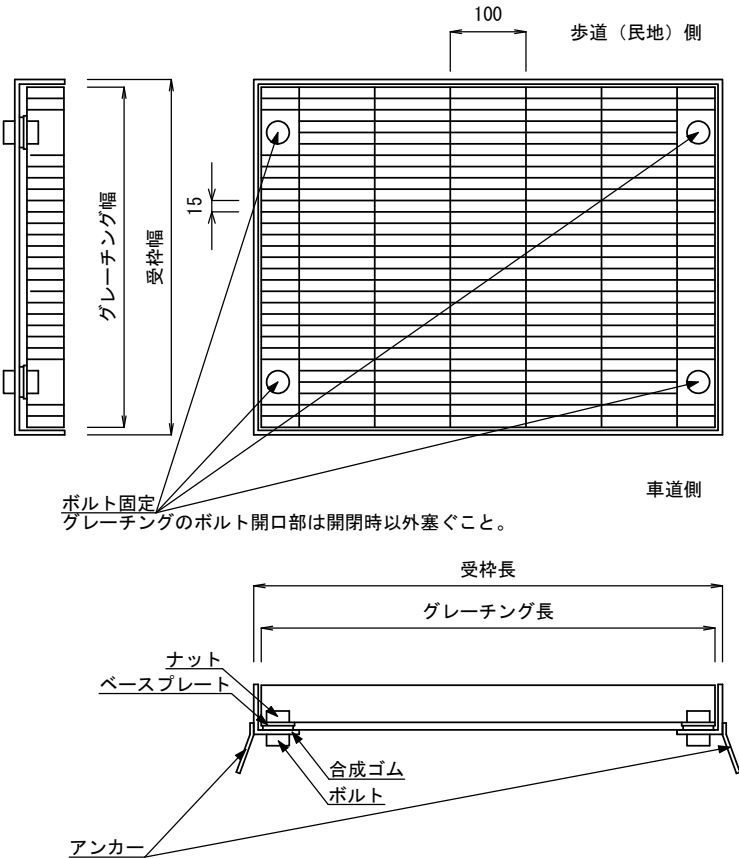
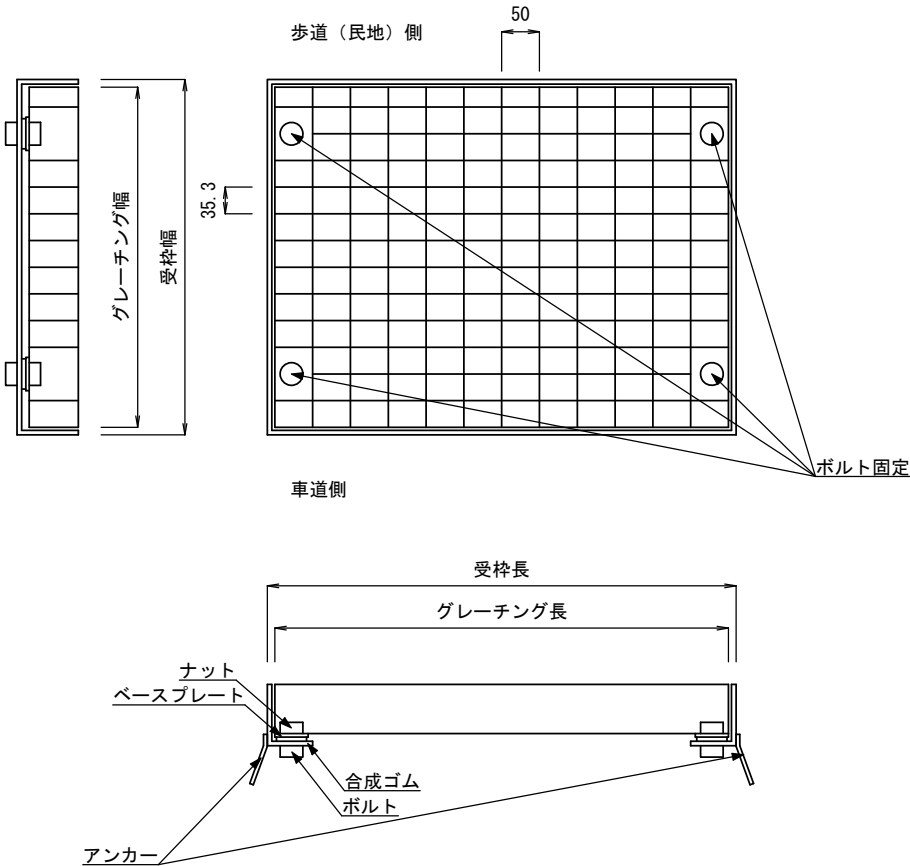
寸法表

荷重、柵開口寸法	グレーチング寸法 (mm)			
	a	b	c (普通目)	c (細目)
T-20 340×400	350	500	50	38
T-14 350×500	325	600	50	38
T-20 350×500	325	600	50	38

固定式グレーチング柵蓋 S=1:10

普通目

細目



主に交通量区分N5～N6の車道に使用
 材質：SS400
 仕上げ グレーチング：溶融亜鉛メッキ、受枠：黒塗装
 グレーチングは滑り止め加工を行うこと。
 受枠とグレーチングの隙間は15mm以下とすること。

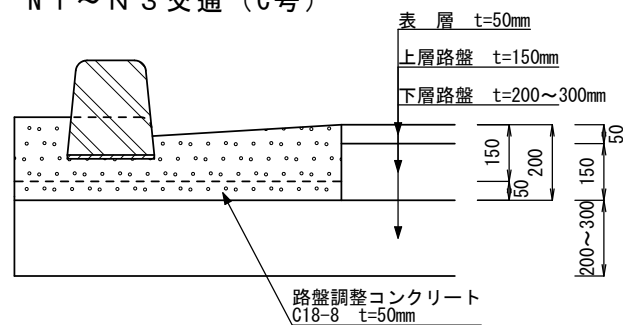
寸法表

荷重、柵開口寸法	
T-25	340×400
T-25	350×500

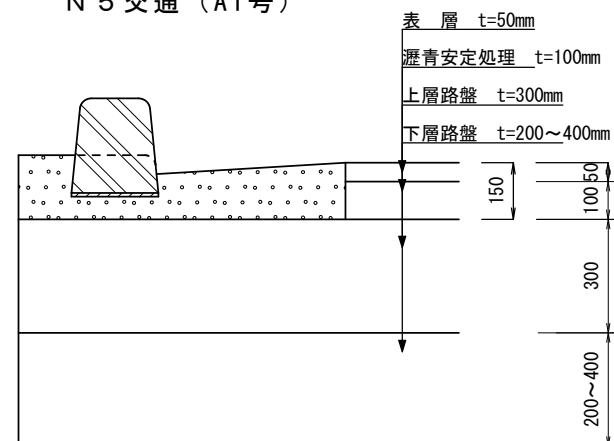
現場打・組合せ L 形側溝基礎

舗装構成図 S=1:20

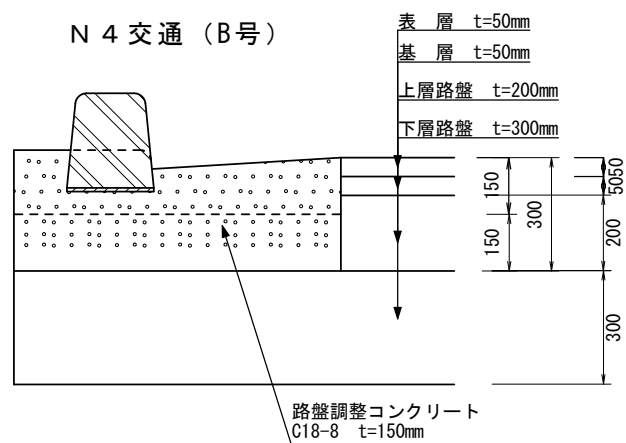
N 1 ~ N 3 交通 (C号)



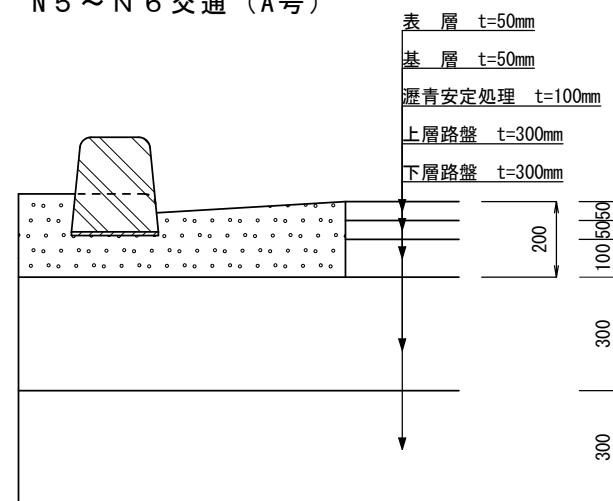
N 5 交通 (A1号)



N 4 交通 (B号)



N 5 ~ N 6 交通 (A号)

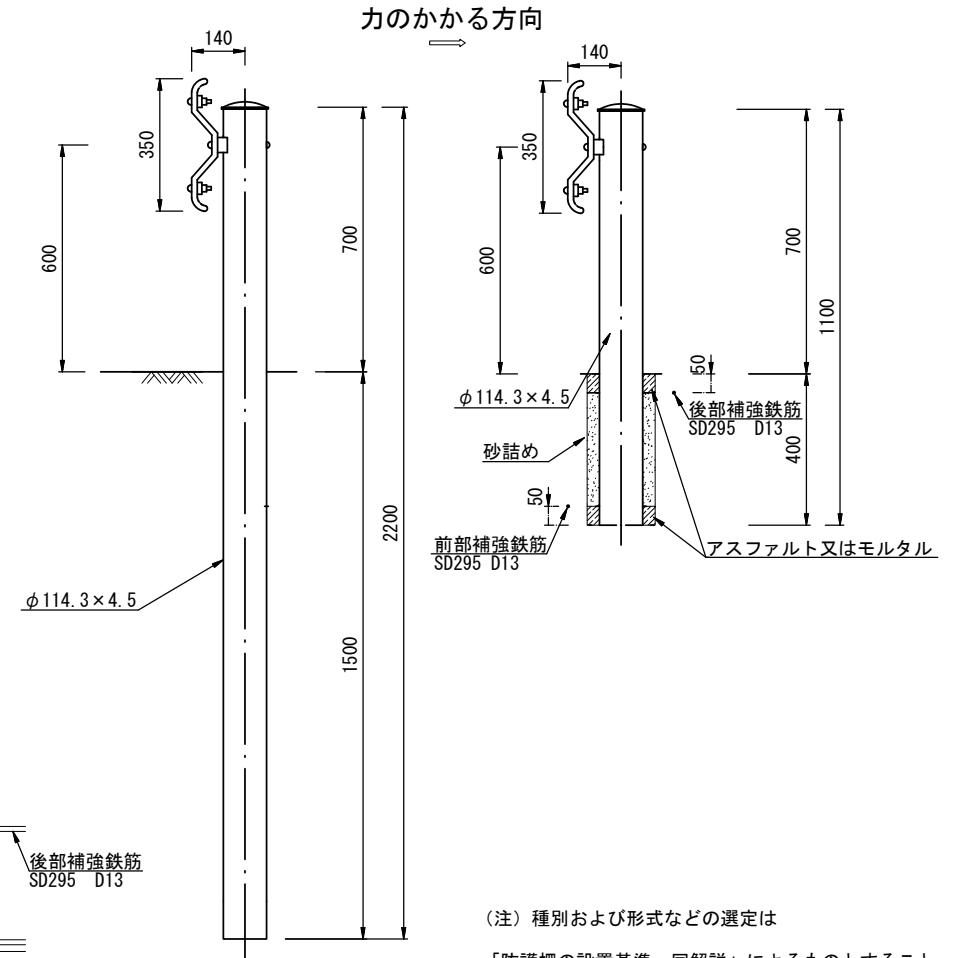
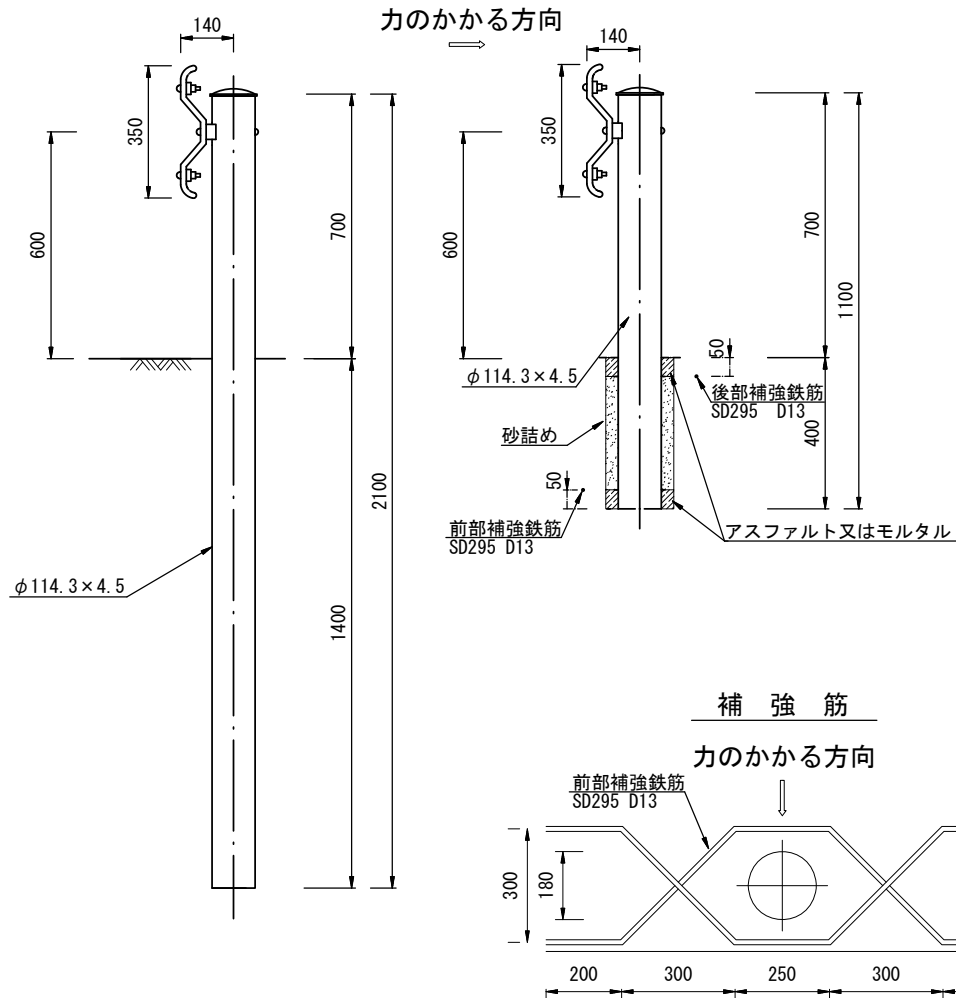


注：路盤調整コンクリートは側溝エプロンと一体で打設すること。

ガードレール S=1 : 20

(C種) (設計速度50km/h以下)

(B種) (設計速度60km/h以上)

土 中 用
Gr-C-4E構 造 物 用
Gr-C-2B土 中 用
Gr-B-4E構 造 物 用
Gr-B-2B

(注) 種別および形式などの選定は

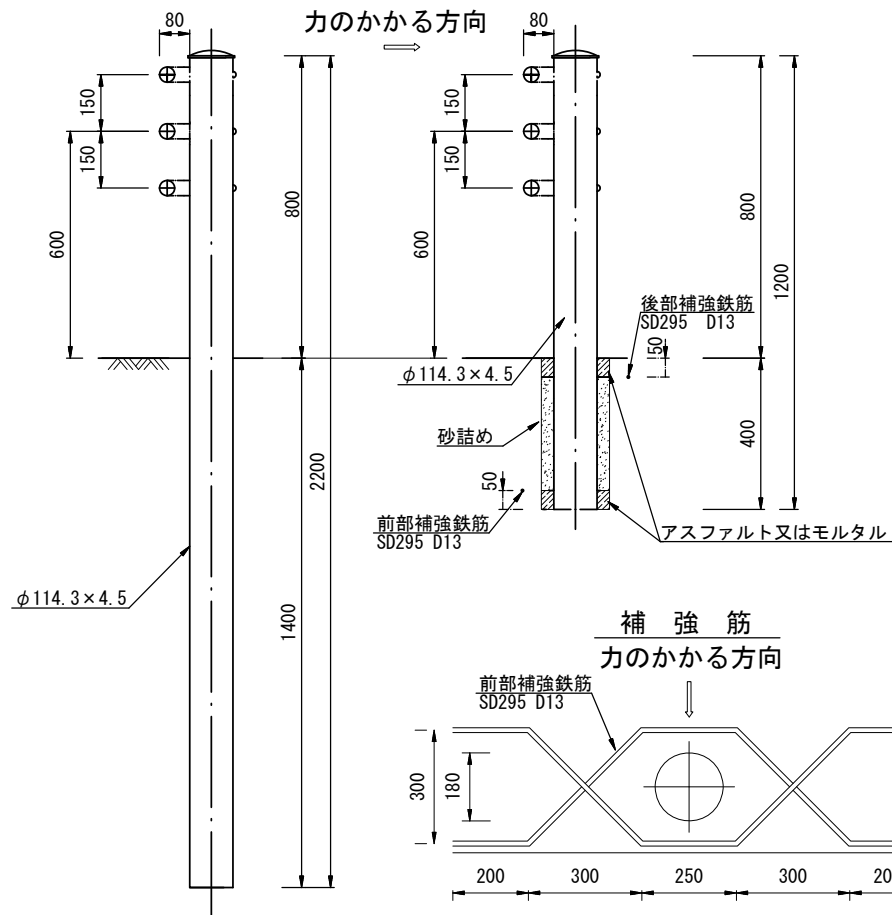
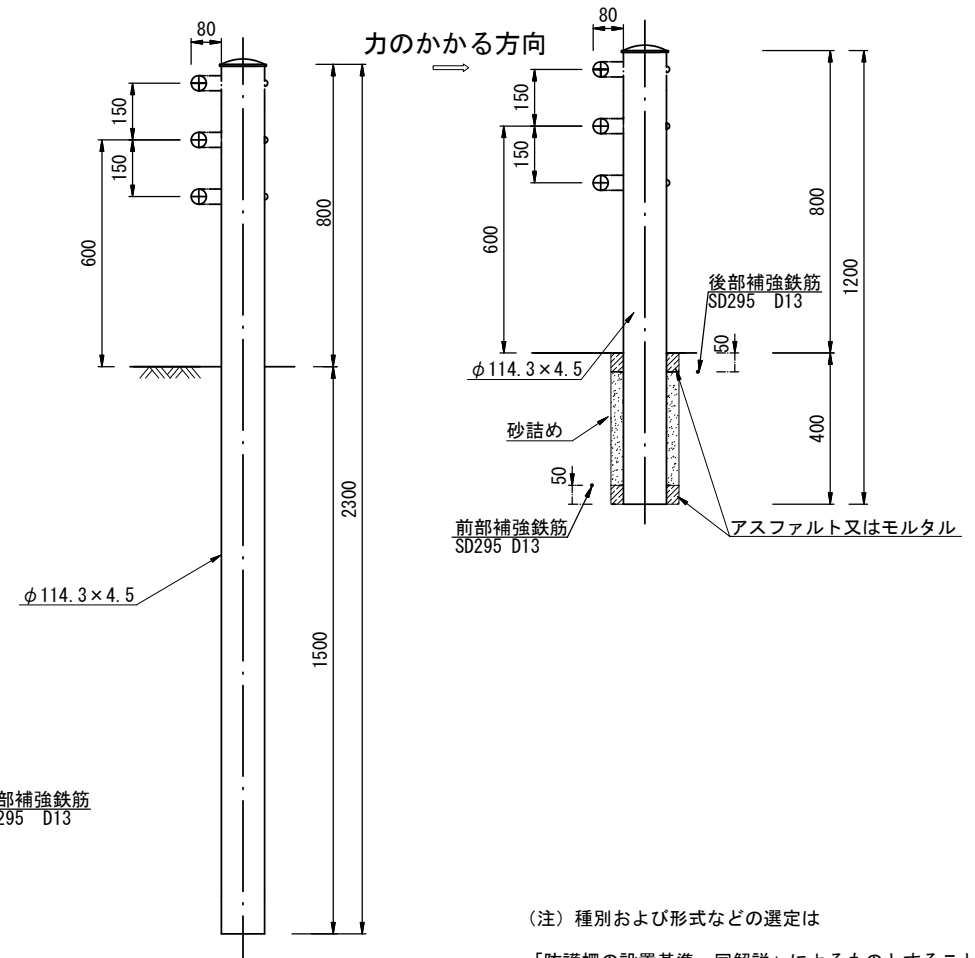
「防護柵の設置基準・同解説」によるものとする。

(注) 単独基礎を使用するときは別途検討すること。

ガードパイプ S=1 : 20

(Cp種) (設計速度50km/h以下)

(Bp種) (設計速度60km/h以上)

土 中 用
Gp-Cp-2E (Gp-C-3E)構 造 物 用
Gp-Cp-2B (Gp-C-2B)土 中 用
Gp-Bp-2E (Gp-B-3E)構 造 物 用
Gp-Bp-2B (Gp-B-2B)

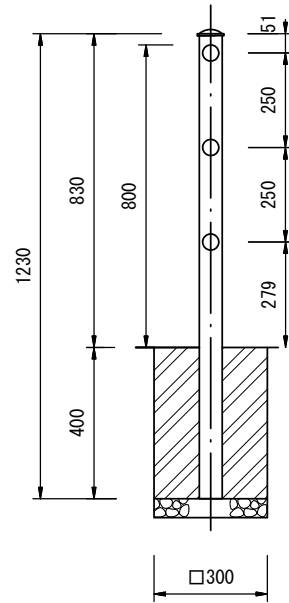
(注) 種別および形式などの選定は

「防護柵の設置基準・同解説」によるものとする。

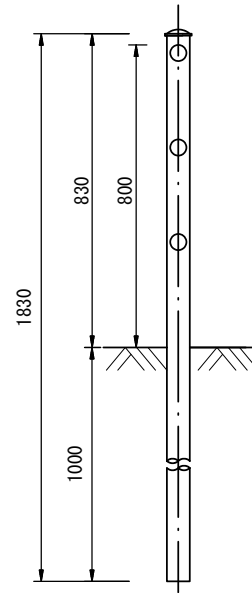
(注) 単独基礎を使用するときは別途検討すること。

横断防止柵

$S = 1:20$
コンクリートブロック用

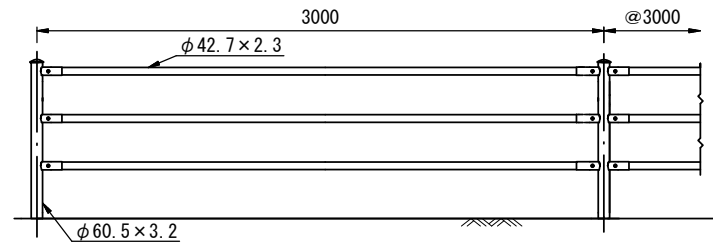


$S = 1:20$
土中用

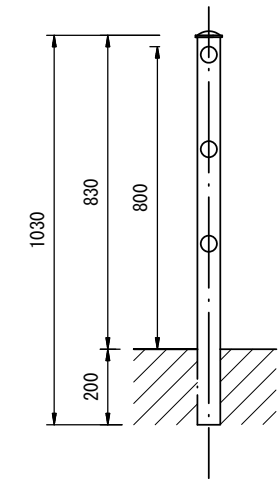


$S = 1:40$

正面図



$S = 1:20$
コンクリート埋込用

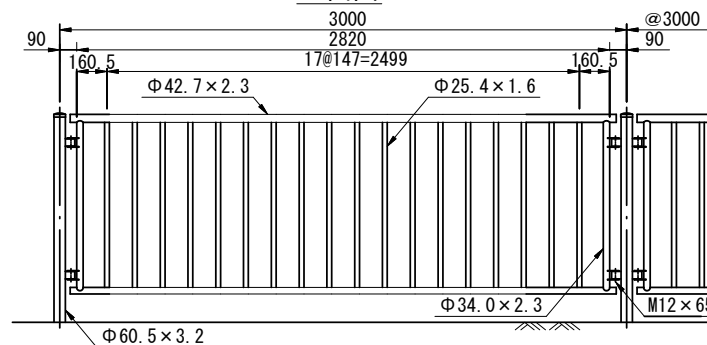


(注) 1. 種別および形式などの選定は「防護柵の設置基準・同解説」によるものとする。

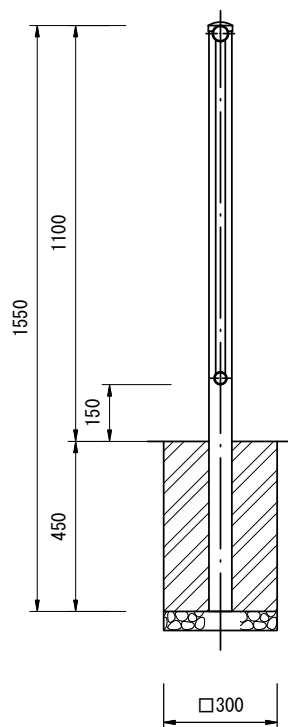
転落防止柵 (P種)

 $S = 1:40$

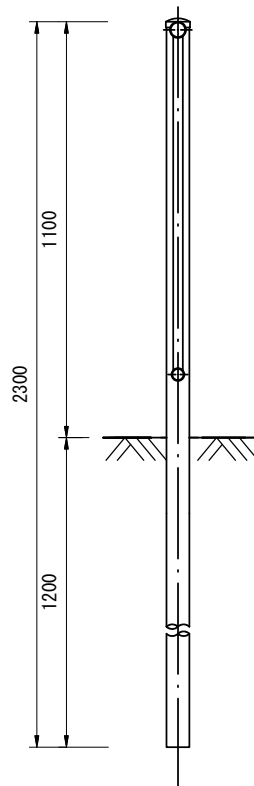
正面図



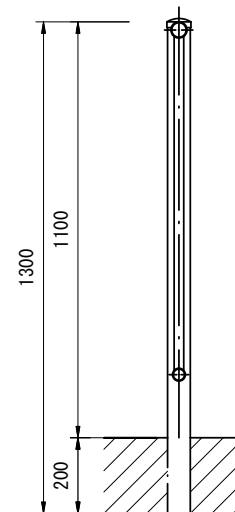
$S = 1:20$
コンクリートブロック用



$S = 1:20$
土中用

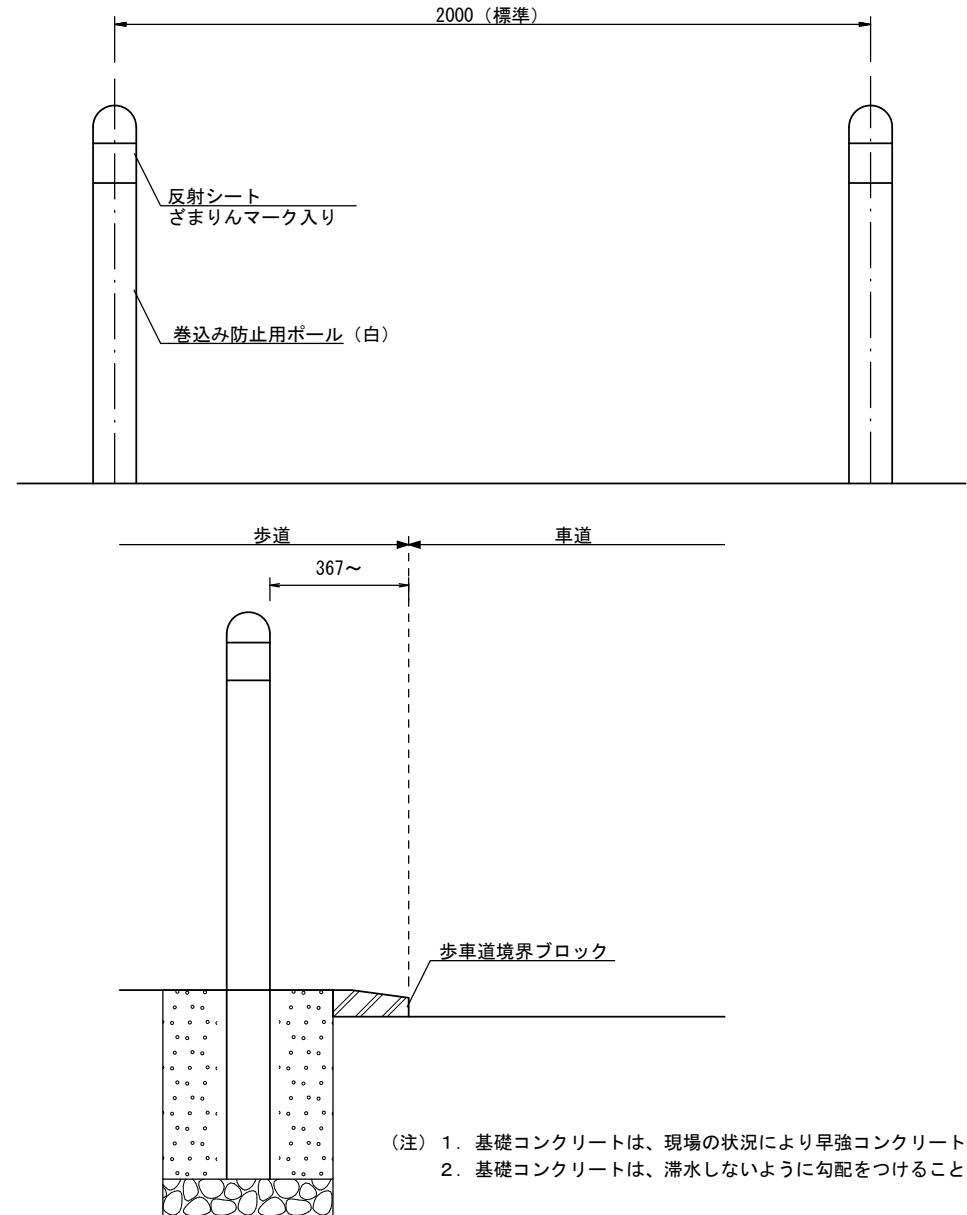
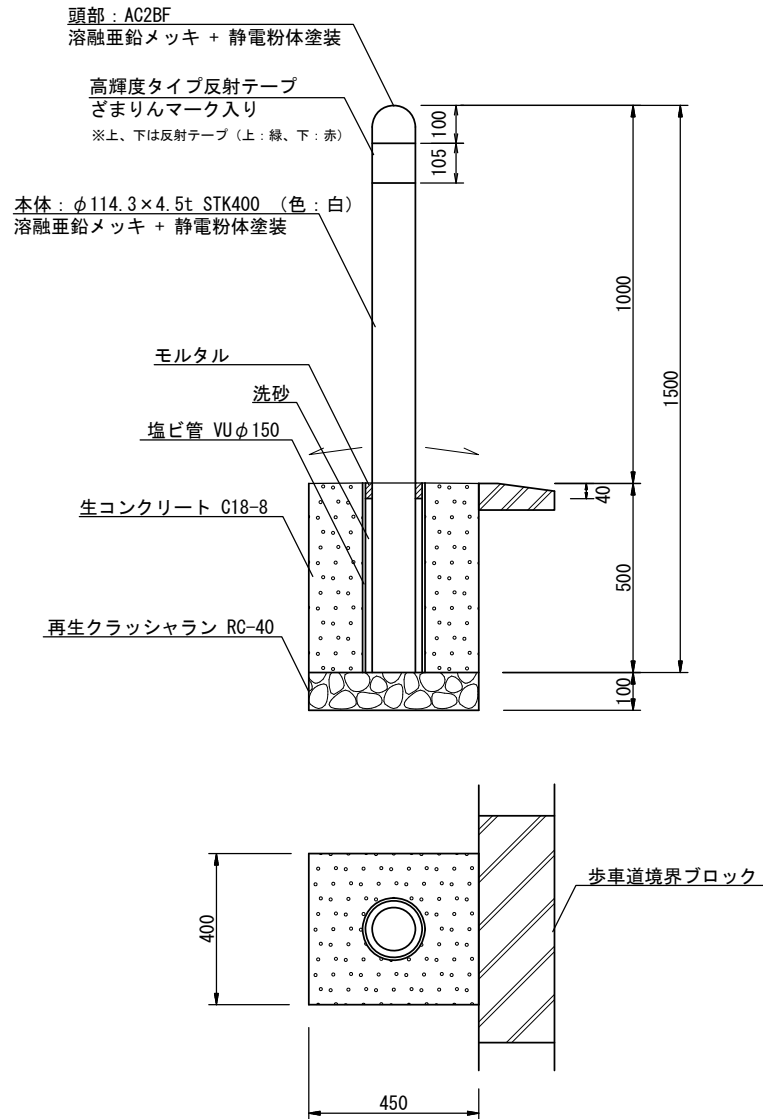


$S = 1:20$
コンクリート埋込用

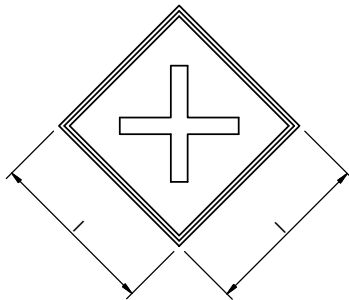
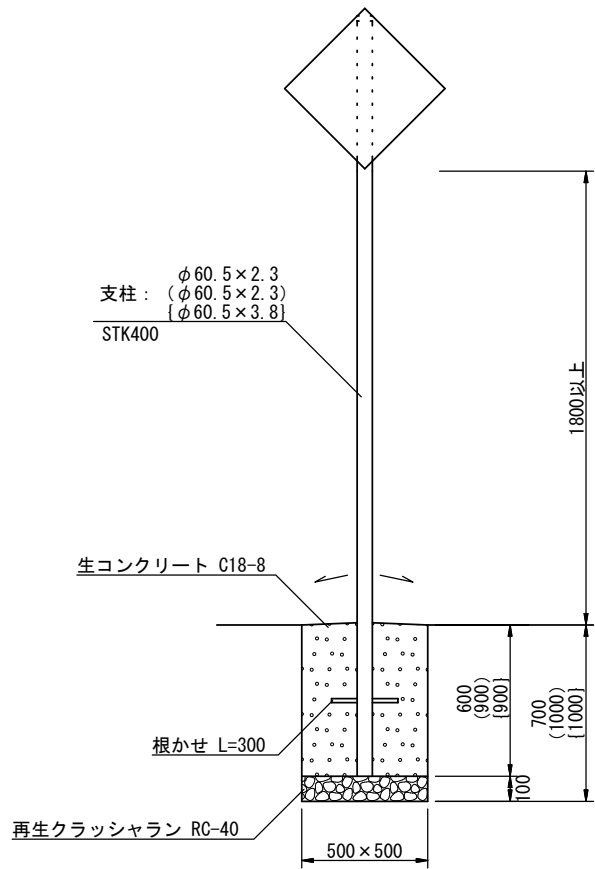


(注) 1. 種別および形式などの選定は「防護柵の設置基準・同解説」によるものとする。

巻込み防止（車止め）用ポール



警戒標識基礎（標識板1枚）



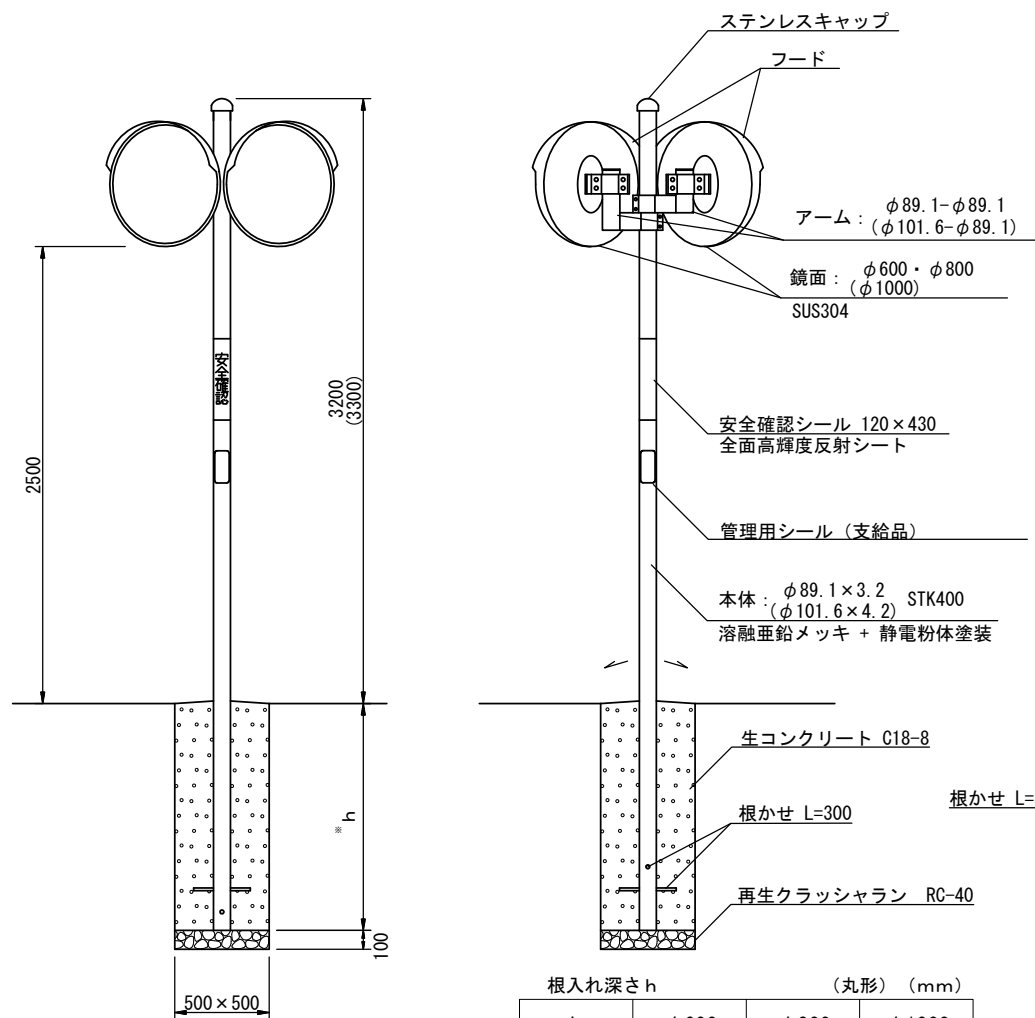
板の拡大率	寸法
基本寸法	l=450
1.3倍	l=585
1.6倍	l=720

- (注) 1. 標識板の設置高さ（路面から標識板の下端までの高さ、ただし補助標識がある場合にはその下端までの高さ）は、下記の場合を除き、1.80mを標準とすること。
- ①標識を歩道等に設置する場合で、路上施設を設置するための帯状の部分がなく、かつ十分な歩道等の幅員を確保できない場合、表示板の設置高さを2.5m以上とすること。
2. 歩道等を有する道路において、歩道等に標識を設置する場合には、原則として歩車道境界と標識との間を25cm以上離すこと。
3. 歩道等を有しない道路にあって、路端に標識を設置する場合には、車道部端の外側に設置することを原則とすること。
4. 板の拡大率の選定については、「道路標識設置基準」によるものとする。
5. 基礎コンクリート天端には、滞水しないよう勾配をつけること。
6. 基礎コンクリートは、現場の状況により早強コンクリートを使用すること。
7. 他の管理者によって設置された標識の基礎寸法については、各管理者の指示に従うこと。

※ 板の拡大率1.3倍の寸法を（ ）、拡大率1.6倍の寸法を〔 〕で示す。
 なお、補助標識を付設したものにも、上記基礎寸法を適用する。

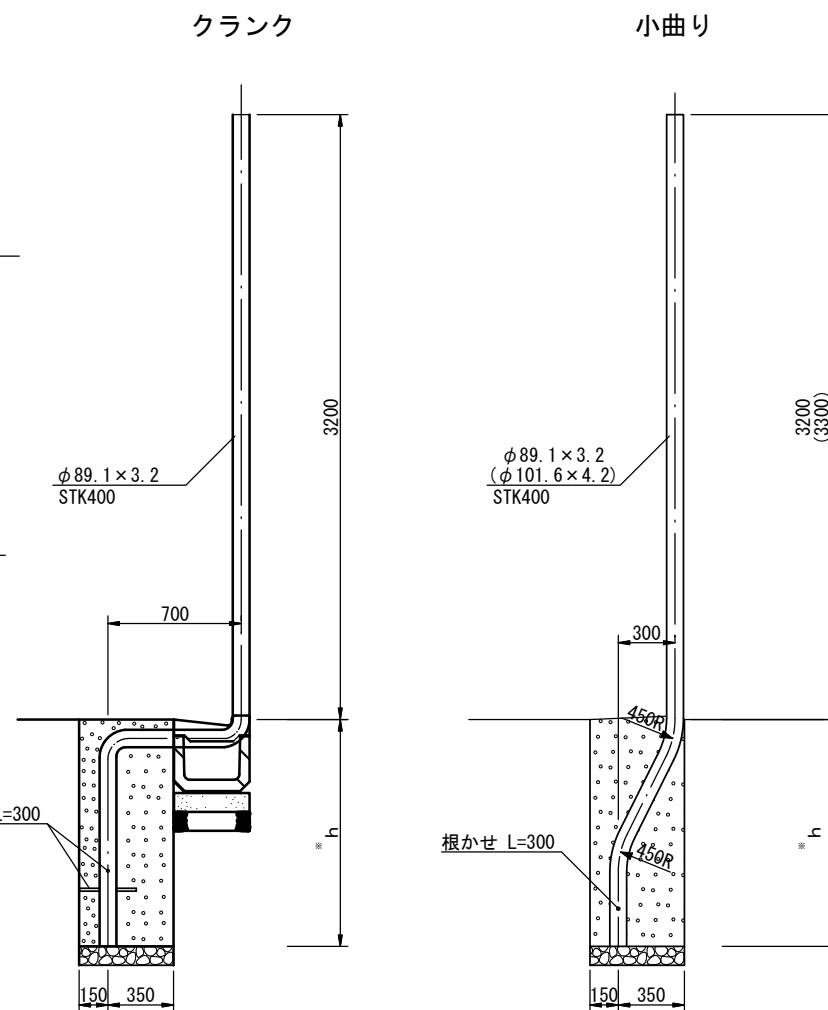
道路反射鏡 (1)

標準構造図



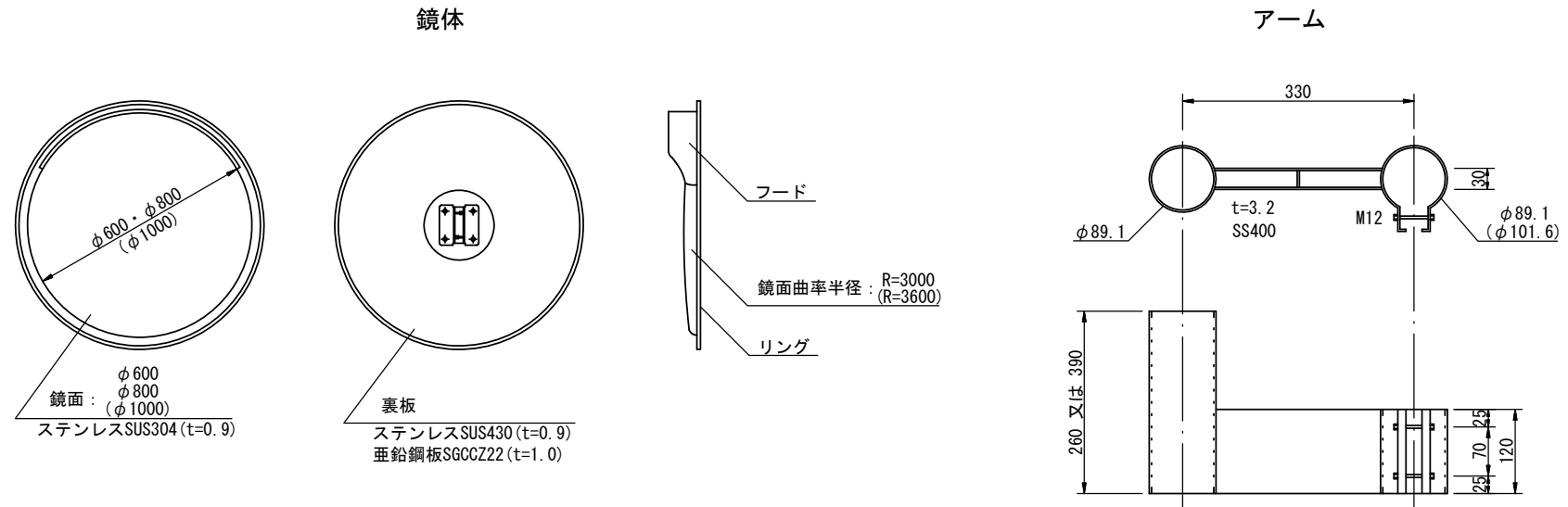
根入れ深さ h	(丸形) (mm)		
h	$\phi 600$	$\phi 800$	$\phi 1000$
一面	600	900	1200
二面	900	1200	1500

曲げ加工基礎構造図

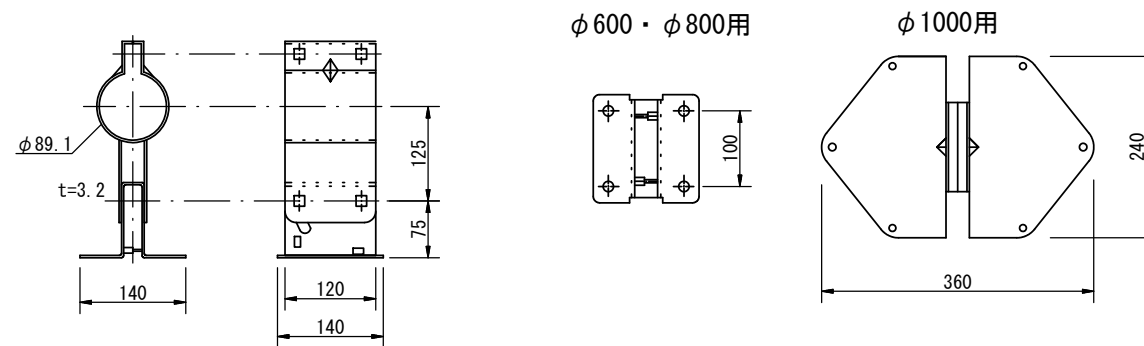


- (注) 1. 鏡面の大きさ $\phi 1000$ の寸法を () で示す。
2. 基礎コンクリート天端には、滞水しないよう勾配をつけること。
3. 基礎コンクリートは、現場の状況により早強コンクリートを使用すること。
4. クランク支柱の基礎コンクリート設置位置は、側溝の形状や現場状況によるものとする。

道路反射鏡（２）参考図



取付金具



- (注) 1. 鏡面の大きさφ1000の寸法を()で示す。
 2. 「道路反射鏡設置指針」に基づく品質表示票が貼付された協会認定品を使用すること。
 3. 取付金具及びビス、ボルト、ナット類は溶融亜鉛メッキ処理とすること。

座間市計画交通量路線網図

交通量の区分	大型車交通量（台／日・一方向）	
N 1 交通	1 5 未満	
N 2 交通	1 5 以上	4 0 未満
N 3 交通	4 0 以上	1 0 0 未満
N 4 交通	1 0 0 以上	2 5 0 未満
N 5 交通	2 5 0 以上	1 0 0 0 未満
N 6 交通	1 0 0 0 以上	3 0 0 0 未満

主要幹線道路

生活道路

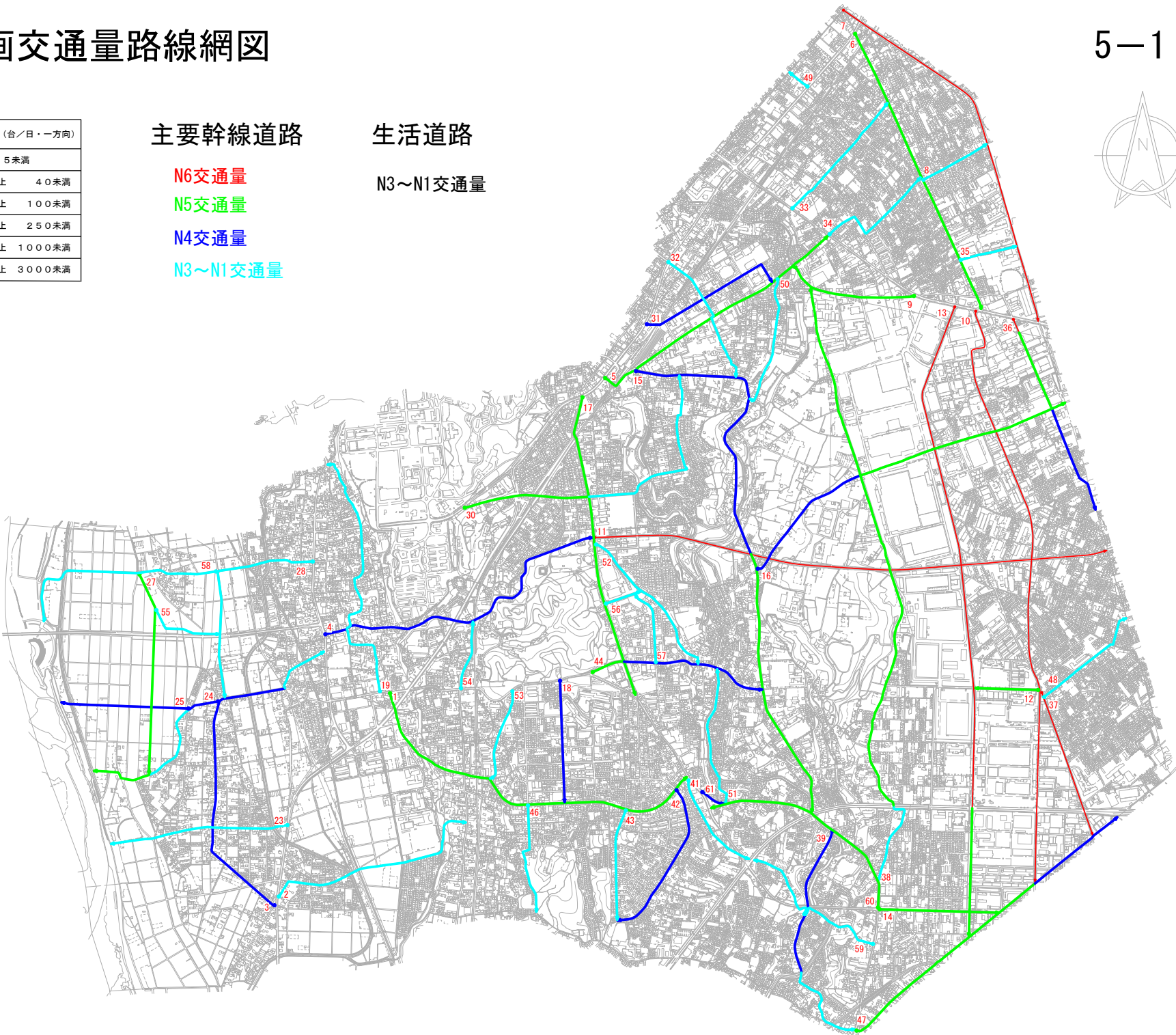
N6交通量

N3～N1交通量

N5交通量

N4交通量

N3～N1交通量



座間市道路構造物標準図

令和 8 年 1 月 1 日 施行

令和 8 年 1 0 月 2 0 日 改訂

座 間 市 都 市 部 道 路 課